

授業科目名：生産工芸実地 研修	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：平野英史 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 美術及び高等学校 工芸）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 工芸 ・ 工芸制作（プロダクト制作を含む）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>伝統的産業工芸に携わる個人作家から、大企業までの現代の社会経済の中でもものづくりに携わる人々の仕事を見聞する。その中でさまざまな専門分野での多様な発想や表現，材料，高度な技術，あるいは環境への対応などの課題に触れ，実社会でのものづくりの厳しさと責任とを知る。また伝統的工芸や地場産業を通じて歴史や風土と深くかかわった地域社会に根ざすものづくりの有様を学ぶ。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>日本各地の伝統的あるいは近代的産業工芸について事前に調べ，資料収集し，その後，実際に見学する。対象は個人の工房から大手企業の工場まで多岐に渡り，実社会でもものづくりに携わる人々の多様な仕事を見聞することで工芸の社会的有り様を学ぶ。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：授業の概要</p> <p>第2回：産業工芸について（1）伝統技術と産業について</p> <p>第3回：産業工芸について（2）伝統工芸の地域性</p> <p>第4回：資料の収集および作成（1）図書館を利用した収集</p> <p>第5回：資料の収集および作成（2）パワーポイントによる作成</p> <p>第6回：資料の発表（1）金属工芸，陶磁器，ガラス工芸などのグループ</p> <p>第7回：資料の発表（2）染織，木工芸および漆工などのグループ</p> <p>第8回：工房見学（1）金属工芸</p> <p>第9回：工房見学（2）木工芸および漆工</p> <p>第10回：工房見学（3）ガラス工芸</p> <p>第11回：工房見学（4）染織</p> <p>第12回：工房見学（5）陶磁器</p> <p>第13回：見学内容の発表（1）金属工芸，陶磁器，ガラス工芸などのグループ</p> <p>第14回：見学内容の発表（2）染織，木工芸，漆工などのグループ</p>			
<p>テキスト</p> <p>授業中に適宜資料を配布する。</p>			
<p>参考書・参考資料等</p>			

『近代工芸案内 東京国立近代美術館工芸館コレクションを中心として』（東京国立近代美術館編，凸版印刷）

学生に対する評価

発表内容 50%，授業への参加態度 50%

授業科目名：美術史演習 A	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 尾関 幸 担当形態： 単独
科 目	教科および教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 美術）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・美術理論・美術史（鑑賞並びに日本の伝統美術及びアジアの美術を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 美術史上の重要なテーマについて理解した上で自ら課題を設定し、探求する力を身に着ける。			
授業の概要 参加者各自が『西洋美術史』に掲載されている作品 作家から美術史に関する独自のテーマを設定し、調査、分析した上で口頭発表する			
授業計画 第1回： オリエンテーション 第2回： 20世紀美術の概要 第3回： 学生の口頭発表（20世紀美術から） 第4回： 19世紀美術の概要 第5回： 学生の口頭発表（19世紀美術から） 第6回： 17・18世紀美術の概要 第7回： 学生の口頭発表（17・18世紀美術から） 第8回： ルネッサンス美術の概要 第9回： 学生の口頭発表（ルネッサンス美術から） 第10回： 古代・中世の美術の概要 第11回： 学生の口頭発表（古代・中世の美術から） 第12回： 建築史の概要と学生の口頭発表（建築史） 第13回： 工芸史の概要と学生の口頭発表（工芸史） 第14回： まとめ			
テキスト 指定しない			
参考書・参考資料等 『西洋美術史』 美術出版社			
学生に対する評価 ディスカッションへの参加30% 資料作成20% 口頭発表50%			

授業科目名：美術史演習 B	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 尾関 幸 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 美術）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・美術理論・美術史（鑑賞並びに日本の伝統美術及びアジアの美術を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 美術史上の重要なテーマについて理解した上で自ら課題を設定し、探求する力を身に着ける。			
授業の概要 参加者各自が『日本美術史』に掲載されている作品 作家から美術史に関する独自のテーマを設定し、調査、分析した上で口頭発表する			
授業計画 第1回： オリエンテーション 第2回： 日本の近代美術の概要 第3回： 学生の口頭発表（日本の近代美術から） 第4回： 江戸後期の日本美術の概要 第5回： 学生の口頭発表（江戸後期の日本美術から） 第6回： 江戸前期の美術の概要 第7回： 学生の口頭発表（江戸前期の美術から） 第8回： 鎌倉・室町時代の美術の概要 第9回： 学生の口頭発表（鎌倉・室町時代の美術から） 第10回： 奈良・平安時代の美術の概要 第11回： 学生の口頭発表（奈良・平安時代の美術から） 第12回： 奈良時代以前の美術の概要 第13回： 学生の口頭発表（奈良時代以前の美術から） 第14回： まとめ			
テキスト 指定しない			
参考書・参考資料等 『日本美術史』 美術出版社			
学生に対する評価 ディスカッションへの参加30% 資料作成20% 口頭発表50%			

授業科目名：現代美術史概論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：阿部真弓 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 美術）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・美術理論・美術史（鑑賞並びに日本の伝統美術及びアジアの美術を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>ねらい： 19世紀末から20世紀の西洋美術の歴史と20世紀後半から現在に至る現代美術への展開とを把握する。代表的な美術家、作品、潮流、時代精神、歴史的背景などを学び、作品調査の基礎的方法を身につける。美術史、批評、または美術家自身による美術に関する文章を読み、制作・批評・受容におけるさまざまな視点に触れる。</p> <p>目標： みずから美術作品について多様な視点から考察すること、かつそれを文章を通してあらわすことができるようになる。対象とする作家、作品、潮流、時代の歴史・社会・文化的背景などについて分かりやすく伝えられるようになる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>主に20世紀初頭から1970年代までの西洋の美術の歴史について、主な潮流を取り上げて講じます。また、その前史となる19世紀後半の西洋絵画、今日までの世界の現代美術を扱います。</p> <p>各回では、代表的作品を取り上げ、主題や技法、様式、歴史、美学、社会、技術、心理、展示空間など多様な視点から分析をおこなうとともに、同時代の写真、建築文化などとの比較をおこないます。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：イントロダクション</p> <p>第2回：エドゥアール・マネ：古典絵画と現代性</p> <p>第3回：光を描く：クロード・モネと印象派</p> <p>第4回：「ポスト印象派」</p> <p>第5回：アンリ・マティスと装飾</p> <p>第6回：パブロ・ピカソと前衛絵画の文化的多様性</p> <p>第7回：未来派</p> <p>第8回：ダダ</p> <p>第9回：シュルレアリスム</p> <p>第10回：「抽象絵画」とは何か</p> <p>第11回：抽象表現主義</p> <p>第12回：ポップ・アート</p> <p>第13回：コンセプチュアル・アート</p> <p>第14回：まとめ 近現代美術と展示空間</p>			
テキスト			

教科書は用いません。毎回、講義資料としてレジュメを配布します。
参考書・参考資料等 初回に基礎文献について説明します。
学生に対する評価 平常点（リアクションペーパー50% ディスカッションへの参加50%）により総合的に評価する

授業科目名： 美術史実地研修	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：尾関幸、中村 ひの 担当形態： 複数
科目	教科および教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 美術）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・美術理論・美術史（鑑賞並びに日本の伝統美術及びアジアの美術を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 美術品や建築を現地で見学し、実際の作品や遺構に接することで講義や演習では得がたい体験をとおして美術への理解を深める。また、旅行計画や見学先の事前調査（資料収集）など準備のための事前授業に取り組み、現地で知識を活用できるようにする。研修後はレポート作成で経験を反復しこれらを通して教職において求められる授業計画の立案実施能力を育む。			
授業の概要 見学先の選定や日程など、研修の具体的な内容については事前授業のなかで決定する。現地での演習に備え、事前に提出するレポートの分担を各自に割り当てるほか、係分担なども決め、見学時に円滑な団体行動がとれるようにすることで模擬的な初等および中等教育の鑑賞の授業としての経験も積む。見学先については奈良・京都の寺社や博物館を予定している。			
授業計画（集中講義として二泊三日で実施） 第1回：第1回事前ミーティング 概要説明・初回ガイダンス（1時間程度の活動） 第2回：第2回事前ミーティング 参加者確定（1時間程度の活動） 第3回：第3回事前ミーティング 発表担当の割り振り・係決め（1時間程度の活動） 第4回：第4回事前ミーティング 事前発表会（事前レポートの提出）（5時間程度の活動） 第5回：演習初日 集合・確認 奈良見学1日目（6時間程度の活動） 第6回：演習2日目 奈良見学2日目・移動・宇治見学（8時間程度の活動） 第7回：演習3日目 京都見学（含京都国立博物館）・解散（8時間程度の活動） 終了後 事後レポートの提出			
テキスト とくに定めない			
参考書・参考資料等 水野敬三郎『奈良・京都の古寺めぐり：仏像の見かた』岩波ジュニア新書89、1985（¥819）			
学生に対する評価 事前発表会（30%）及び現地での口頭発表（50%）と終了後に提出するレポート（20%）による。			

授業科目名：中等美術科教育Ⅰ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：相田隆司 担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 美術）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>中学校美術科の基本となる美術科教育の歴史、理念や目的、公教育における位置付けや学習指導要領等の内容、指導計画や教育内容、指導及び評価の方法等について理解し、美術科の実践に向けた基礎的理解と資質・能力を獲得することを目標とする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>第1～3回では、美術科教育成立の歴史と理念、生徒の発達等、教科の基礎理論を学ぶ。第4回～12回では、学習指導要領等の理解を踏まえ、各内容の題材研究、学習指導案作成および模擬授業、指導と評価の方法等を学ぶ。第13回以降は、特別支援や人権、多様性と持続可能性、授業実践の省察と研究による教師の力量形成等、今後の美術科の取り組みを見据えた内容を学び、これからの美術科教育のあり方を展望する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション（本授業の目的と方法、教職課程における本授業の位置づけなど）</p> <p>第2回：美術科教育の歴史と理念</p> <p>第3回：児童期から青年期の発達と美術科教育の関わり</p> <p>第4回：学習指導要領とカリキュラム（資質・能力及び造形的な見方・考え方の理解を含む）（情報通信技術の活用を含む）</p> <p>第5回：学習指導計画の作成、学習評価と授業改善の工夫（情報通信技術の活用を含む）</p> <p>第6回：内容と方法及び指導計画の作成：絵による指導（情報通信技術の活用を含む）</p> <p>第7回：内容と方法及び指導計画の作成：彫刻による指導（情報通信技術の活用を含む）</p> <p>第8回：内容と方法及び指導計画の作成：デザインによる指導（情報通信技術の活用を含む）</p> <p>第9回：内容と方法及び指導計画の作成：工芸による指導（情報通信技術の活用を含む）</p> <p>第10回：内容と方法及び指導計画の作成：鑑賞による指導（情報通信技術の活用を含む）</p> <p>第11回：内容と方法及び指導計画の作成：映像メディアによる指導（情報通信技術の活用を含む）</p> <p>第12回：内容と方法及び指導計画の作成：美術館及び地域社会や海外の文化と関連した指導（情報通信技術の活用を含む）</p> <p>第13回：美術科教育と特別支援教育、人権教育、多様性と持続可能性（知的財産権・肖像権含む）（情報通信技術の活用を含む）</p> <p>第14回：授業実践の省察と研究及び教師の資質・能力の向上、まとめ・教育の意味の再考</p> <p>定期試験</p>			

テキスト

- ・ 中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）
- ・ 中学校学習指導要領解説 美術編（平成29年6月 文部科学省）
- ・ 教科書「中学校美術」1、2・3年

参考書・参考資料等

- ・ 図工・美術科教育（教科教育学シリーズ08）（平成27年4月、一藝社）
- ・ 福田隆眞、福本謹一、茂木一司編著『美術科教育の基礎知識』（平成22年10月、建帛社）

学生に対する評価

課題への取り組み（30%）、レポート（20%）、グループワーク（30%）、定期試験（20%）の結果を基に総合的に判断する。

授業科目名：中等美術科教育法Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：笠原広一 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 美術）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>中学校美術科を担当する上で基本となる美術教育思想や歴史、指導法や実践研究法などについて、国内外の美術教育の変遷と広がりをつとめつそれらを理解し、教育実践に生かしていくことができるようになることを目標とする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>第1～4回では、美術科教育の歴史と学習指導要領の変遷を学び、教科の考え方と内容及び指導方法の背景を理解する。第5～8回では、今日までの美術科教育実践の背景となる国内外の理論及び実践例を検討し、授業実践を生み出す基盤となる知識と実践的な方法論の理解を深める。第9回以降は、上記内容と現代的課題を踏まえて美術科の授業構想を行い、情報機器も活用しながら模擬授業を行い、評価と授業改善についての検討を通して、美術科教育の実践を創出していく知識と理解を深め、力量形成を図る。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション（本授業の目的と方法、教職課程における本授業の位置づけなど）</p> <p>第2回：日本の美術教育の歴史（明治期から平成期まで）</p> <p>第3回：学習指導要領の変遷とその背景</p> <p>第4回：海外の美術教育の歴史（近代教育の成立から現在まで）</p> <p>第5回：美術教育理論と実践と研究：美学研究の系譜より</p> <p>第6回：美術教育理論と実践と研究：児童画研究の系譜より</p> <p>第7回：美術教育理論と実践と研究：認知心理学の系譜より</p> <p>第8回：美術教育理論と実践と研究：Arts-Based(Educational)Research, A/r/tographyの系譜より</p> <p>第9回：美術科の授業構想：題材研究</p> <p>第10回：美術科の授業構想：学習指導案作成（情報通信技術の活用を含む）</p> <p>第11回：美術科の授業構想：模擬授業発表、評価と授業改善について（1）（表現：絵画・彫刻）（情報通信技術の活用を含む）</p> <p>第12回：美術科の授業構想：模擬授業発表、評価と授業改善について（2）（表現：デザイン・工芸）（情報通信技術の活用を含む）</p> <p>第13回：美術科の授業構想：模擬授業発表、評価と授業改善について（3）（鑑賞）（情報通信技術の活用を含む）</p> <p>第14回：美術科の授業構想：模擬授業発表、評価と授業改善について（4）（映像メディア）（情報通信技</p>			

術の活用を含む)、まとめ 定期試験

テキスト

- ・ 中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）
- ・ 中学校学習指導要領解説 美術編（平成29年6月 文部科学省）
- ・ 教科書「中学校美術」1、2・3年

参考書・参考資料等

- ・ 図工・美術科教育（教科教育学シリーズ08）（平成27年4月、一藝社）
- ・ 福田隆眞、福本謹一、茂木一司編著『美術科教育の基礎知識』（平成22年10月、建帛社）
- ・ アーサー・D・エフランド著、ふじえみつる監訳『美術と知能と感性：認知論から美術教育への提言』（平成23年1月、日本文教出版）
- ・ 永守基樹編著『美術教育学叢書 1 美術教育学の現在から』（平成30年3月、学術研究出版）
- ・ 金子一夫編著『美術教育学叢書 2 美術教育学の歴史から』（令和元年3月、学術研究出版）
- ・ 神林恒道、ふじえみつる監修『美術教育ハンドブック』（平成30年3月、三元社）
- ・ 小松佳代子編著『美術教育の可能性－芸術制作と芸術的省察－』（平成30年2月、勁草書房）
- ・ 美術科教育学会編『美術教育学』他。

学生に対する評価

課題への取り組み（30%）、レポート（20%）、グループワーク（30%）、定期試験（20%）の結果を基に総合的に判断する。

授業科目名：中等美術科教育法Ⅲ	教員の免許状取得のための必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：水島尚喜 担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 美術）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>学習指導要領に基づきながら、美術教育の意義、目的、方法論などについての理解を深め、青年前期の美術教育の在り方を探るとともに、中高生の年齢と課題意識に根ざした授業の在り方を展望する。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>前半では、戦後国内外の美術状況を巡るキーワードを取り上げ、現代につながる美術教育の系譜を検討する。後半では、授業ビデオ等の映像や視聴覚資料および情報機器も活用しながら学習指導要領の理解を深め、「絵や彫刻などに表現する活動」を中心とする題材内容と資質・能力を考察し、授業実践の省察と題材研究を通して、授業観、生徒観の形成をはかる。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション（美術と授業と研究をつなぐ）</p> <p>第2回：戦後の美術教育理念の変遷と国際的な実践理論の広がり</p> <p>第3回：美術教育における身体性と自然体験</p> <p>第4回：美術教育におけるメディア環境及びビジュアルカルチャー（情報通信技術の活用を含む）</p> <p>第5回：美術教育におけるコミュニティと持続可能性</p> <p>第6回：21世紀における人間観の変容と美術教育の今日（資質・能力観の変容）</p> <p>第7回：視覚情報資料を基にした考察1（中学校美術授業の実際）（情報通信技術の活用を含む）</p> <p>第8回：視覚情報資料を基にした考察2（高等学校「美術Ⅰ」「美術Ⅱ・Ⅲ」授業の実際）（情報通信技術の活用を含む）</p> <p>第9回：中学校学習指導要領美術編の目標と内容、評価の検討</p> <p>第10回：「絵や彫刻などに表現する活動」及び「鑑賞の活動」の構想と実践：学習指導案作成および模擬授業（情報通信技術の活用を含む）</p> <p>第11回：「絵や彫刻などに表現する活動」及び「鑑賞の活動」の評価と研究（情報通信技術の活用を含む）</p> <p>第12回：高等学校学習指導要領芸術編美術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの構想と実践：学習指導案作成および模擬授業（情報通信技術の活用を含む）</p> <p>第13回：高等学校学習指導要領芸術編美術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの評価と研究（情報通信技術の活用を含む）</p> <p>第14回：中学校美術科と高等学校芸術科美術の授業実践へのアプローチの検討、授業実践の省察と研究、まとめ</p> <p>定期試験は実施しない</p>			

テキスト

- ・ 中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）
- ・ 高等学校学習指導要領（平成30年3月告示 文部科学省）
- ・ 中学校学習指導要領解説 美術編（平成29年6月 文部科学省）
- ・ 高等学校学習指導要領解説 芸術（音楽・美術・美術・書道）編・音楽編・美術編（平成30年7月 文部科学省）
- ・ 教科書「中学校美術」1、2・3年
- ・ 教科書「高等学校美術」Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ

参考書・参考資料等

- ・ 図工・美術科教育（教科教育学シリーズ08）（平成27年4月、一藝社）
- ・ 福田隆眞、福本謹一、茂木一司編著『美術科教育の基礎知識』（平成22年10月、建帛社）
- ・ 永守基樹編著『美術教育学叢書1 美術教育学の現在から』（平成30年3月、学術研究出版）
- ・ 金子一夫編著『美術教育学叢書2 美術教育学の歴史から』（令和元年3月、学術研究出版）
- ・ 神林恒道、ふじえみつる監修『美術教育ハンドブック』（平成30年3月、三元社）
- ・ 小松佳代子編著『美術教育の可能性－芸術制作と芸術的省察－』（平成30年2月、勁草書房）

学生に対する評価

課題レポート（40%）、授業ノート（45%）、口頭発表（15%）による総合評価

授業科目名：中等美術科教育Ⅳ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：清家颯 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 美術）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>本授業では、中等教育段階の美術教育において、とくにデザイン（中・高）・工芸（中学）・映像メディア表現（高校）とその領域の鑑賞の教育内容と方法について具体的に検討する。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>導入段階では、デザイン・工芸領域の概要、史的概要などに触れ、デザイン・工芸が現代社会とどう向き合うのかを探る。中盤では、中学・高校生の興味の在り方や造形特性について、授業ビデオの映像や視聴覚資料および情報機器も活用しながら理解を深め、中高の学習指導要領と関連づけていく。終盤では、授業の構想を課題にし、デザイン・工芸・映像メディア表現の授業提案を発表する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション（本授業の目的と方法、教職課程における本授業の位置づけなど）</p> <p>第2回：デザイン・工芸と現代社会</p> <p>第3回：伝える、使うなどの「目的・機能」と資質・能力</p> <p>第4回：中学高校生の美意識と感情、表現方法（情報通信技術の活用を含む）</p> <p>第5回：授業視覚資料と考察1（中学校美術授業「デザインや工芸活動」の実際）</p> <p>第6回：授業視覚資料と考察2（高等学校「美術Ⅰ」の「デザイン・映像メディア表現」）</p> <p>第7回：授業視覚資料と考察3（高等学校「美術Ⅱ・Ⅲ」の「デザイン・映像メディア表現」）</p> <p>第8回：中学校学習指導要領美術編と内容「デザインや工芸などの表現活動」を中心に、「目的や機能を考えた発想・構想」「技能」「鑑賞」及び〔共通事項〕</p> <p>第9回：高等学校学習指導要領芸術編美術Ⅰと内容「デザイン、映像メディア表現、鑑賞」</p> <p>第10回：中学校段階の美術の授業をどう構想・実践・評価するかを検討：題材研究および学習指導案作成（情報通信技術の活用を含む）</p> <p>第11回：高等学校段階の美術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの授業をどう構想・実践・評価するかを検討：題材研究および学習指導案作成（情報通信技術の活用を含む）</p> <p>第12回：課題研究発表（模擬授業） Aグループ（デザイン・工芸）</p> <p>第13回：課題研究発表（模擬授業） Bグループ（映像メディア）</p> <p>第14回：課題研究発表（模擬授業） Cグループ（鑑賞）、まとめ・教育の意味の再考</p> <p>定期試験は実施しない</p>			

テキスト

- ・ 中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）
- ・ 高等学校学習指導要領（平成30年3月告示 文部科学省）
- ・ 中学校学習指導要領解説 美術編（平成29年6月 文部科学省）
- ・ 高等学校学習指導要領解説 芸術（音楽・美術・美術・書道）編・音楽編・美術編（平成30年7月 文部科学省）
- ・ 教科書「中学校美術」1、2・3年
- ・ 教科書「高等学校美術」Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ

参考書・参考資料等

- ・ 図工・美術科教育（教科教育学シリーズ08）（平成27年4月、一藝社）
- ・ 福田隆眞、福本謹一、茂木一司編著『美術科教育の基礎知識』（平成22年10月、建帛社）
- ・ 勝見勝『現代デザイン理論のエッセンス』（昭和41年、ペリかん社）

学生に対する評価

課題設定力（40%）、発表の工夫（30%）、提出レポート（30%）を総合的に評価する。

授業科目名：剣道A	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：奥村基生
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 体育実技		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>剣道の実技を通して武道の伝統的な考え方を理解し、相手を尊重して練習や試合ができるようになることを目標とする。また、基本的な動作や技を習得して攻防を展開できるようになることや、生徒に対する指導法を理解することを目標とする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>礼法や作法，基本的な個人技能や対人技能，練習や試合の方法を学ぶ。また，実習の中で生徒に対する指導法を学習する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：授業の概要，防具の選択，はじめての剣道</p> <p>第2回：剣道の理解，竹刀と防具の手入れ</p> <p>第3回：礼法，作法，着装</p> <p>第4回：構え，基本動作</p> <p>第5回：仕掛け技：面</p> <p>第6回：仕掛け技：小手，胴</p> <p>第7回：引き技</p> <p>第8回：出ばな技</p> <p>第9回：応じ技</p> <p>第10回：戦術：準備動作，防御動作</p> <p>第11回：戦術：フェイント動作，状況判断</p> <p>第12回：試合方法，試合</p> <p>第13回：武道必修化などについて，指導案作成</p> <p>第14回：まとめ，防具などの片付け</p>			
<p>テキスト</p> <p>授業中に適宜配布する。</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>授業中に適宜配布する。</p>			
<p>学生に対する評価</p>			

授業内評価 35 点, ノート 35 点, 指導案 30 点, 授業の欠席や態度による加点・減点 0~40 点.

授業科目名：剣道B	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：奥村基生
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 体育実技		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>剣道の実技を通して武道の伝統的な考え方を理解し、相手を尊重して練習や試合ができるようになることを目標とする。また、基本的な動作や技を習得して攻防を展開できるようになることや、生徒に対する指導法を理解することを目標とする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>礼法や作法，基本的な個人技能や対人技能，練習や試合の方法を学ぶ。また，実習の中で生徒に対する指導法を学習する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：授業の概要，防具の選択，はじめての剣道</p> <p>第2回：剣道の理解，竹刀と防具の手入れ</p> <p>第3回：礼法，作法，着装</p> <p>第4回：構え，基本動作</p> <p>第5回：仕掛け技：面</p> <p>第6回：仕掛け技：小手，胴</p> <p>第7回：引き技</p> <p>第8回：出ばな技</p> <p>第9回：応じ技</p> <p>第10回：戦術：準備動作，防御動作</p> <p>第11回：戦術：フェイント動作，状況判断</p> <p>第12回：試合方法，試合</p> <p>第13回：武道必修化などについて，指導案作成</p> <p>第14回：まとめ，防具などの片付け</p>			
<p>テキスト</p> <p>授業中に適宜配布する。</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>授業中に適宜配布する。</p>			
<p>学生に対する評価</p>			

授業内評価 35 点, ノート 35 点, 指導案 30 点, 授業の欠席や態度による加点・減点 0~40 点.

授業科目名：柔道A	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：久保田浩史 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・体育実技		
授業の到達目標及びテーマ：柔道の特性を理解し、柔道の授業を行うための指導法を理解する。柔道には体づくり運動など他の運動種目にも通ずる要素があることを理解する。			
授業の概要：柔道の特性を理解し、柔道の授業を行うための指導法を理解する。授業において留意すべき点、とくに安全面への配慮を理解する。柔道の基本動作、受身、基本的な投技および固技を習得するだけでなく、柔道の成り立ちや教育的意義についても理解する。			
<p>授業計画</p> <p>第1回：柔道について、柔道の礼法、基本姿勢、基本動作、バランス崩しゲーム、</p> <p>第2回：ゲーム要素を取り入れた基本動作や固技、遊び要素を取り入れた指導方法</p> <p>第3回：柔道衣の着方、受け身（後ろ受け身、横受け身、前回り受け身）、</p> <p>第4回：受け身の復習、ゲーム要素を取り入れた受け身</p> <p>第5回：投げ技技能の習得（導入編、出足払）</p> <p>第6回：投げ技技能の習得（膝車、支釣込足）、固め技技能の習得（袈裟固）</p> <p>第7回：投げ技技能の習得（大外刈）、固め技技能の習得（横四方固）</p> <p>第8回：投げ技技能の習得（大内刈）、固め技技能の習得（上四方固）</p> <p>第9回：投げ技技能の習得（小内刈）、固め技技能の習得（縦四方固）</p> <p>第10回：投げ技技能の習得（体落）、固め技技能の習得（肩固）</p> <p>第11回：投げ技技能の習得（大腰）、固め技技能の習得（抑え込む方法）</p> <p>第12回：投げ技技能の習得（背負投、釣込腰）、固め技技能の習得（逃げ方）</p> <p>第13回：投げ技技能の習得（払腰、内股）、固め技技能の習得（抑込技の連絡変化）</p> <p>第14回：投げ技技能の習得（連絡技、変化技）、</p> <p>これまでのまとめと技能到達度チェック（技能テスト）</p>			
テキスト 特に指定しない			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>「安全で楽しい柔道授業ガイド」 全日本柔道連盟</p> <p>「よくわかる柔道受け身のすべて」 木村昌彦ら</p> <p>「柔道指導の手引（三訂版）」、「柔道の授業の安全な実施に向けて」、</p> <p>「学習指導要領（保健体育編）」「学習指導要領解説（保健体育編）」文部科学省</p> <p>「子どもの身体の動きが劇的に変わる コーディネーションゲーム60」久保田浩史ら など</p>			
学生に対する評価			

受講態度 (60%)、技能テスト (30%)、レポート (10%)

授業科目名：柔道B	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名：久保田浩史 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・体育実技		
授業の到達目標及びテーマ：柔道の特性を理解し、柔道の授業を行うための指導法を理解する。柔道には体づくり運動など他の運動種目にも通ずる要素があることを理解する。			
授業の概要：柔道の特性を理解し、柔道の授業を行うための指導法を理解する。授業において留意すべき点、とくに安全面への配慮を理解する。柔道の基本動作、受身、基本的な投技および固技を習得するだけでなく、柔道の成り立ちや教育的意義についても理解する。			
<p>授業計画</p> <p>第1回：柔道について、柔道の礼法、基本姿勢、基本動作、バランス崩しゲーム、</p> <p>第2回：ゲーム要素を取り入れた基本動作や固技、遊び要素を取り入れた指導方法</p> <p>第3回：柔道衣の着方、受け身（後ろ受け身、横受け身、前回り受け身）、</p> <p>第4回：受け身の復習、ゲーム要素を取り入れた受け身</p> <p>第5回：投げ技技能の習得（導入編、出足払）</p> <p>第6回：投げ技技能の習得（膝車、支釣込足）、固め技技能の習得（袈裟固）</p> <p>第7回：投げ技技能の習得（大外刈）、固め技技能の習得（横四方固）</p> <p>第8回：投げ技技能の習得（大内刈）、固め技技能の習得（上四方固）</p> <p>第9回：投げ技技能の習得（小内刈）、固め技技能の習得（縦四方固）</p> <p>第10回：投げ技技能の習得（体落）、固め技技能の習得（肩固）</p> <p>第11回：投げ技技能の習得（大腰）、固め技技能の習得（抑え込む方法）</p> <p>第12回：投げ技技能の習得（背負投、釣込腰）、固め技技能の習得（逃げ方）</p> <p>第13回：投げ技技能の習得（払腰、内股）、固め技技能の習得（抑込技の連絡変化）</p> <p>第14回：投げ技技能の習得（連絡技、変化技）、</p> <p>これまでのまとめと技能到達度チェック（技能テスト）</p>			
テキスト 特に指定しない			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>「安全で楽しい柔道授業ガイド」 全日本柔道連盟</p> <p>「よくわかる柔道受け身のすべて」 木村昌彦ら</p> <p>「柔道指導の手引（三訂版）」、「柔道の授業の安全な実施に向けて」、</p> <p>「学習指導要領（保健体育編）」「学習指導要領解説（保健体育編）」文部科学省</p> <p>「子どもの身体の動きが劇的に変わる コーディネーションゲーム60」久保田浩史ら など</p>			
学生に対する評価			

受講態度 (60%)、技能テスト (30%)、レポート (10%)

授業科目名：サッカーA	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：新海 宏成 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 体育実技		
授業の到達目標及びテーマ：生徒の見本となるサッカーの個人技能を獲得するとともに、サッカーの基本的特性や理論を理解し、学校体育の授業で実施されるサッカーの指導法を身につけること。			
授業の概要：主に足でボールを扱う「サッカー」の特性を理解し、学校体育での授業展開に必要な理論や指導方法を実践的な体験を通じて学ぶ。具体的には、以下の6点を中心に取り組む。①サッカーの特性理解（楽しさ・難しさ） ②理想的なサッカーと中学・高校生の実態の理解 ③教師と生徒による授業や試合の運営方法 ④各種個人技能の特性理解と習得 ⑤プレーの原理・原則の理解 ⑥サッカー構成要素の変化とプレーの変化の関係性への理解			
<p>授業計画</p> <p>第1回：サッカーの基本的特性および学習指導要領の解説と理解、個々の技能レベルの確認</p> <p>第2回：基本的なルールと審判法の解説と理解</p> <p>第3回：ボールキックとトラップの理論と実践</p> <p>第4回：ボールフィーリング（身体の様々な場所でボールをコントロール）とドリブルの理論と実践</p> <p>第5回：個人技能のトレーニングと習熟、個人プレーの原理・原則</p> <p>第6回：集団プレー（攻撃）の原理・原則</p> <p>第7回：集団プレー（守備）の原理・原則</p> <p>第8回：人数の違いによるサッカーの変化</p> <p>第9回：コートの違いによるサッカーの変化</p> <p>第10回：ブラインドサッカーの体験</p> <p>第11回：ルールの違いによるサッカーの変化　－基礎－</p> <p>第12回：ルールの違いによるサッカーの変化　－応用－</p> <p>第13回：クワトロゲームの紹介と実践</p> <p>第14回：まとめのゲーム、授業の総括</p>			
テキスト 特に指定しない			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>「サッカー競技規則（日本サッカー協会）」、「小学校体育 全学年対応 新・サッカー指導の教科書（東洋館出版社）」、「中学校体育 サッカー指導の教科書（東洋館出版社）」、「小学校学習指導要領解説・体育編（文部科学省）」、「中学校学習指導要領解説・保健体育編（</p>			

文部科学省)」、「高等学校学習指導要領解説・保健体育編 体育編 (文部科学省)」、その他は授業内で適宜紹介する。

学生に対する評価

平常点：30%、課題点：70%

- ・平常点は、毎授業に取り組む姿勢やグループワークでの取り組み等を総合的に判断して評価する。
- ・課題点は、授業内で指示する課題（レポートや動画等の提出物）を評価する。

授業科目名：サッカーB	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：新海 宏成 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 体育実技		
授業の到達目標及びテーマ：生徒の見本となるサッカーの個人技能を獲得するとともに、サッカーの基本的特性や理論を理解し、学校体育の授業で実施されるサッカーの指導法を身につけること。			
授業の概要：主に足でボールを扱う「サッカー」の特性を理解し、学校体育での授業展開に必要な理論や指導方法を実践的な体験を通じて学ぶ。具体的には、以下の6点を中心に取り組む。①サッカーの特性理解（楽しさ・難しさ） ②理想的なサッカーと中学・高校生の実態の理解 ③教師と生徒による授業や試合の運営方法 ④各種個人技能の特性理解と習得 ⑤プレーの原理・原則の理解 ⑥サッカー構成要素の変化とプレーの変化の関係性への理解			
<p>授業計画</p> <p>第1回：サッカーの基本的特性および学習指導要領の解説と理解、個々の技能レベルの確認</p> <p>第2回：基本的なルールと審判法の解説と理解</p> <p>第3回：ボールキックとトラップの理論と実践</p> <p>第4回：ボールフィーリング（身体の様々な場所でボールをコントロール）とドリブルの理論と実践</p> <p>第5回：個人技能のトレーニングと習熟、個人プレーの原理・原則</p> <p>第6回：集団プレー（攻撃）の原理・原則</p> <p>第7回：集団プレー（守備）の原理・原則</p> <p>第8回：人数の違いによるサッカーの変化</p> <p>第9回：コートの違いによるサッカーの変化</p> <p>第10回：ブラインドサッカーの体験</p> <p>第11回：ルールの違いによるサッカーの変化　－基礎－</p> <p>第12回：ルールの違いによるサッカーの変化　－応用－</p> <p>第13回：クワトロゲームの紹介と実践</p> <p>第14回：まとめのゲーム、授業の総括</p>			
テキスト 特に指定しない			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>「サッカー競技規則（日本サッカー協会）」、「中学校体育 サッカー指導の教科書（東洋館出版社）」、「中学校学習指導要領解説・保健体育編（文部科学省）」、「高等学校学習指導要領解説・保健体育編 体育編（文部科学省）」、その他は授業内で適宜紹介する。</p>			

学生に対する評価

平常点：30%、課題点：70%

- ・平常点は、毎授業に取組む姿勢やグループワークでの取り組み等を総合的に判断して評価する。
- ・課題点は、授業内で指示する課題（レポートや動画等の提出物）を評価する。

授業科目名：ラグビー	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名：鈴木秀人 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 体育実技		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>ラグビーフットボールという運動種目について理解する。高等学校の体育授業において、ラグビーを教えるために必要な専門的知識を習得しつつ、実技の指導方法を習得する。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>実技（ゲーム）を中心としたラグビーの指導方法。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第 1 回：オリエンテーション。ラグビーフットボールの歴史と種目の特性。</p> <p>第 2 回：学習の第 1 段階としてのタグラグビー①～ランニング中心のゲーム</p> <p>第 3 回：タグラグビー②～オフサイドルールを加えた発展したゲーム</p> <p>第 4 回：タグラグビー③～ランニングとパスを組み合わせたゲーム</p> <p>第 5 回：学習の第 2 段階としてのタッチラグビー①～ランニング中心のゲーム</p> <p>第 6 回：タッチラグビー②～キックを入れたゲーム</p> <p>第 7 回：タッチラグビー③～ミニスクラムを入れたゲーム</p> <p>第 8 回：学習の第 3 段階としてのミニラグビー①～ホールドでのゲーム</p> <p>第 9 回：ミニラグビー②～タックルを入れたゲーム</p> <p>第 10 回：ミニラグビー③～正規のルールに準じたゲーム</p> <p>第 11 回：学習の第 4 段階としてのセブンスラグビー①～ミニコートでのゲーム</p> <p>第 12 回：セブンスラグビー②～コートを広げたゲーム</p> <p>第 13 回：15 人制に準じたゲーム①～ブレイクダウンに制限を加えたゲーム</p> <p>第 14 回：15 人制に準じたゲーム②～制限を緩和したゲーム</p> <p>最終レポートの作成</p>			
<p>テキスト</p> <p>特に指定しない。</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>考えて強くなるラグビーのトレーニング（大修館書店）、だれでもタできるタグラグビー（小学館）、高等学校学習指導要領解説保健体育編（文部科学省）ほか適宜紹介する。</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>実技への取り組み（70%）と複数回提出するレポート（10%）および最終レポート（20%）の内容。</p>			

様式第 1

授業科目名： ハンドボール	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名：笹倉清則 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 体育実技		
授業の到達目標及びテーマ：生徒の見本となるハンドボールの技能を獲得するとともに、生徒に対する基礎的なハンドボール指導法について、理論的根拠および幫助の仕方をあわせて理解すること			
授業の概要：学校において扱われる「ハンドボール」の内容を全般的に学習すると共に、基礎的な個人技能、集団技能を習得する。具体的には、ドイツのジュニア世代のハンドボール指導方法をもとに、①空間の認知能力 ②1：1の突破技術 ③ボールを持たない時の動き ④2～3人の集団攻防 ⑤ゲームの局面構造などを学習する			
授業計画 第1回：ハンドボール特性を理解し、基本的な投動作の技能獲得と指導方法の理解 第2回：ハンドボールのゲームの局面構造の理解とその局面に応じた指導方法の理解 第3回：ゲーム局面1「ボールを取る」局面に必要な技能習得と指導法理解 第4回：ゲーム局面2「ボールを進める1」局面に必要な技能習得と指導法理解 第5回：ゲーム局面2「ボールを進める2」局面に必要な技能習得と指導法理解 第6回：ゲーム局面3「シュート狙う」局面に必要な技能習得と指導法理解 第7回：ハゲーム局面4「セットオフセンス1」局面に必要な個人技能習得と指導法理解 第8回：ゲーム局面4「セットオフセンス2」局面に必要な集団技能習得と指導法理解 第9回：ゲーム局面4「セットオフセンス3」局面に必要なチーム戦術習得と指導法理解 第10回：ゲーム局面4「セットオフセンス4」具体的ないくつかのチーム戦術習得と指導法理解 第11回：ゲーム局面5「戻り」局面に必要な技能習得と指導法理解 第12回：ゲーム局面6「セットでフェンス」局面に必要な技能習得と指導法理解 第13回：GKの基本的な技能獲得とその指導方法の理解 第14回：作戦を経てゲームを実践とその修正方法の理解			
テキスト 特に指定しない			
参考書・参考資料等 「中学校学習指導要領解説・保健体育編」、「高等学校学習指導要領解説・保健体育編 体育編」 文部科学省、その他、授業内で適宜紹介する。			
学生に対する評価 実技課題等（80％）、平常点（20％） ・ 実技課題等は、授業内で提示する技能獲得度を評価する。 ・ 平常点は、授業に取り組む態度等を総合的に判断して評価する。			

授業科目名：体育史	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 鈴木明哲
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校および高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」・運動学（運動方法学を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>今日の学校体育がどのようにして誕生し、発展してきたのか、その歴史について理解することをねらいとする。</p> <p>この授業科目の履修を通じて、受講生が学校体育の歴史について理解し、現代における学校体育をめぐる様々な課題や問題点を考察することができるようになることを到達目標とする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>学校体育の歴史について概論的な説明を行う。授業は講義形式で行う。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：体育史を学習する意味</p> <p>第2回：西洋古代の体育思想</p> <p>第3回：体育の目覚め ルネッサンスと啓蒙時代</p> <p>第4回：近代学校体育の誕生 ドイツとスウェーデン</p> <p>第5回：近代イギリスのスポーツ教育 体育は大英帝国のために</p> <p>第6回：現代体育への転換 アメリカとオーストリア</p> <p>第7回：日本における学校体育のはじまり</p> <p>第8回：森有礼文相の兵式体操と運動会</p> <p>第9回：スウェーデン体操の時代とスポーツ</p> <p>第10回：ラジオ体操の始まり</p> <p>第11回：女性体育史 服装からみた女性の体育</p> <p>第12回：戦時下の体育 体力主義への偏重</p> <p>第13回：戦後における学校体育の復興 体育の自分探し</p> <p>第14回：体力主義体育と「楽しい体育」</p> <p>期末試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>特になし</p>			
<p>参考書・参考資料等</p>			

授業中に適宜資料を配付する。

学生に対する評価

期末試験60%、レポート30%、授業への参加態度10%

授業科目名：体育・スポーツ心理学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：奥村基生 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	強化に関する専門的事項 ・「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」・ 運動学（運動方法学を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>体育・スポーツ心理学における基本的な理論や概念を理解する。また、体育・スポーツの活動において心に生じる現象を理論的な視点をもって観察できるようになる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>運動の発育発達，制御，学習，動機づけなどについて座学だけではなく実体験を通して学び，人間についての理解を深める。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション，記号と運動の学習の違い</p> <p>第2回：運動の発育発達</p> <p>第3回：運動と認知の発育発達</p> <p>第4回：運動と感覚</p> <p>第5回：運動と情報処理</p> <p>第6回：運動の記憶</p> <p>第7回：運動の制御</p> <p>第8回：運動の学習</p> <p>第9回：運動と動機づけ</p> <p>第10回：競技スポーツの実践心理</p> <p>第11回：運動の社会心理</p> <p>第12回：健康運動の心理</p> <p>第13回：メンタルトレーニング</p> <p>第14回：まとめ，試験あるいはレポート課題の解説</p>			
<p>テキスト</p> <p>授業中に適宜配布する。</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>授業中に適宜配布する。</p>			

学生に対する評価

試験あるいはレポート課題 100 点，毎時のレポートなどの授業の取り組み態度や欠席による
加減点 0～40 点.

授業科目名： 体育・スポーツ社会学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：松田 恵示 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」・ 運動学（運動方法学を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 現代社会に広がるいくつかのスポーツのトピックを社会的アプローチから捉えるための知識とスキルを身につけ、スポーツの理解を深めることができる。			
授業の概要 体育・スポーツ社会学の基礎的な知識を習得するとともに、スポーツ文化と社会の関わりを多様な次元で探求し、社会におけるスポーツの多面的理解を深める			
授業計画 第1回：スポーツ社会学を学ぶ意義 第2回：e-Sportsは「スポーツ」か？ 第3回：スポーツと人工知能 第4回：学校体育と身体の社会的構築 第5回：Society5.0の時代と新しい体育の学習指導 第6回：メディアとスポーツ(1) マンガ 第7回：メディアとスポーツ(2)映画とドラマ 第8回：メディアとスポーツ(3)webとsns 第9回：グローバル化とスポーツイベント 第10回：オリンピックと政治 第11回：ダイバシティとスポーツ 第12回：総合型地域スポーツクラブ 第13回：部活動は誰が指導するのか？ 第14回：体育・スポーツ社会学の理論 定期試験			
テキスト 授業時間中に適時指示する			
参考書・参考資料等 特になし			
学生に対する評価			

平常点評価(毎回のリアクションペーパーと授業期間中に実施する2回の小レポート) 50%、定期試験 50%

授業科目名：体育・スポーツ経営学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：朝倉雅史 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」・運動学（運動方法学を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ：体育・スポーツ経営という営みとその考え方を学ぶことで、人々のスポーツ環境を整備し、その豊かなスポーツライフを実現するために必要な知識を身につける。また、体育・スポーツに関わる現代的課題を「経営学的視点」から捉えようとする態度を形成する。			
授業の概要：体育・スポーツ経営学についての基礎的理論を理解するため、体育・スポーツの経営とは一体どのような営みかを現実の場面に即して講義する。講義全体を通して、体育・スポーツにとって「経営」という営みがどのような重要性と必要性を有しているのかを理解することに重点をおく。授業内ではディスカッションの機会を設けて、体育・スポーツ経営の問題や課題について意見交換をし、それらの解決に向けたアイデアを模索する。			
<p>授業計画</p> <p>第1回：現代社会で営まれている「経営」と体育・スポーツとのつながり</p> <p>第2回：現代スポーツと体育・スポーツ経営学</p> <p>第3回：体育・スポーツ経営とは①：体育・スポーツ経営と他領域の経営との違い、経営とは何か</p> <p>第4回：体育・スポーツ経営とは②：体育・スポーツ経営の概念と構造</p> <p>第5回：豊かなスポーツライフについて考える：体育・スポーツ経営の理念</p> <p>第6回：体育・スポーツ事業と経営資源</p> <p>第7回：体育・スポーツ事業の進め方①：エリアサービスとプログラムサービス</p> <p>第8回：体育・スポーツ事業の進め方②：クラブサービス</p> <p>第9回：体育・スポーツ事業の進め方③：多様なスポーツ事業とマーケティング思考</p> <p>第10回：体育・スポーツ経営を営む主体と仕組み</p> <p>第11回：体育・スポーツ経営組織の形態・構造・過程</p> <p>第12回：体育・スポーツ経営の実践領域①：地域スポーツの経営における実践と課題</p> <p>第13回：体育・スポーツ経営の実践領域②：プロスポーツにおける経営実践と課題</p> <p>第14回：体育・スポーツ経営の実践領域③：学校教育と学校体育における経営実践と課題</p>			
テキスト 特に指定しない			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>「テキスト 体育・スポーツ経営学」柳沢和雄、木村和彦、清水紀宏編（大修館書店）、「ホワイト部活動のすすめ一部活動で学校を改革する」佐藤博志、朝倉雅史、内山絵美子、阿部雅子著</p>			

学生に対する評価

最終レポート（50%）、各回提出のワークシート（30%）、グループワーク課題（20%）

- ・最終レポートは、前授業の要点に関する課題を出題して評価する
- ・ワークシートは、授業ごとに提出するコメントの内容を評価する。
- ・グループワーク課題は、「事業計画書」の作成を課題として完成度を評価する。

授業科目名： 解剖生理学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：塩多雅矢 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・生理学（運動生理学を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>骨格筋の位置や働きを知ることは、身体運動の理解の土台となる。ウェイトトレーニングやストレッチ、マッサージなど、骨格筋を対象にするものは特にわかりやすい。機能解剖学の知識を、平素より取り組むスポーツ活動やトレーニングなどと結びつけて考えられることを目標とする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>機能解剖学は体の動きを、筋肉の働きから分析する学問である。前半は総論として、機能解剖学で持ちられる用語の解説や、筋肉、骨、関節の構造や機能を学ぶ。後半は各論として、各身体部位に注目して、その関節構造、筋肉の位置や働きを学ぶ。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：体の方向と動きを表す基礎用語</p> <p>第2回：筋肉の構造と付着</p> <p>第3回：筋肉の収縮特性と役割</p> <p>第4回：筋肉が動く要因①神経の働き</p> <p>第5回：筋肉が動く要因②エネルギー</p> <p>第6回：骨の構造と関節の種類</p> <p>第7回：総論のまとめ、テスト</p> <p>第8回：足関節(足首)の構造と機能</p> <p>第9回：膝関節の構造と機能</p> <p>第10回：股関節の構造と機能</p> <p>第11回：脊柱(背骨～首)の構造と機能</p> <p>第12回：肩複合体の構造と機能</p> <p>第13回：肘関節の構造と機能</p> <p>第14回：手の構造と機能</p> <p>定期試験：各論のまとめ、テスト</p>			
<p>テキスト</p> <p>特になし</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>クレム・トンプソン「身体運動の機能解剖学」医道の日本社、2002</p>			

学生に対する評価

テスト（中間と期末の 2 回）：80%、レポート（授業全範囲を対象）：20%

授業科目名：スポーツ バイオメカニクス	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：新海 宏成 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健 体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・生理学（運動生理学を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ：スポーツバイオメカニクスの分析に必要な力学の基礎を習得し、スポーツ動作 と力学との関係性について理解する。さらに、運動をバイオメカニクスのに評価することのパフォーマンス向 上およびスポーツ指導に対する有用性を理解する。			
授業の概要：スポーツバイオメカニクスを理解する上で不可欠な力学や解剖学、筋-神経生理学の基 礎について解説する。さらに、それらの実際の各種スポーツ動作への応用例を学ぶことで、力学とス ポーツとの関係を理解する。			
授業計画 第1回：スポーツバイオメカニクスの概要とその意義 筋のメカニクス -筋の特性と筋収縮のメカニズム- 第2回：神経のメカニクス -中枢（脳・脊髄）と末梢（筋）の関係性と運動の調節- 解剖学の基礎 -筋・骨・関節の構造とその運動- 第3回：キネマティクスとは -変位・速度・加速度- 運動の法則 第4回：キネティクスとは -力・モーメント（トルク）- 並進運動のキネティクス① -運動量と力積- 第5回：並進運動のキネティクス② -力学的エネルギー・仕事・パワー- 第6回：回転運動のキネティクス -角運動量と慣性モーメント- 第7回：身体重心の意味とスポーツ動作分析への応用 第8回：人体のてこ -筋の発揮張力- 投射体のメカニクス 第9回：良い動きのバイオメカニクスの原則 第10回：歩・走動作のバイオメカニクス 第11回：跳・泳動作のバイオメカニクス 第12回：投・打（蹴）動作のバイオメカニクス 第13回：運動とバイオメカニクスの体験的理解（演習） 第14回：最終試験（またはレポート）、授業のまとめ			
テキスト 特に指定しない			
参考書・参考資料等			

「はじめて学ぶ健康・スポーツ科学シリーズ4 スポーツバイオメカニクス（化学同人）」、「スポーツ動作の科学ーバイオメカニクスで読み解く（東京大学出版会）」、「バイオメカニクスー人体運動の力学と制御（ラウンドフラット）」、「スポーツ技術のバイオメカニクス（ブックハウス・エイチディ）」、その他は授業内で適宜紹介する。

学生に対する評価

毎回の提示課題:60%、最終試験（またはレポート）：40%

授業科目名：衛生・公衆衛生学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：朝倉隆司 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育 中学校及び高等学校 保健） 養護に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・衛生学・公衆衛生学（中学校及び高等学校 保健体育 中学校及び高等学校 保健） ・衛生学及び公衆衛生学（予防医学を含む。）（養護） 		
授業の到達目標及びテーマ：集団・社会レベルで生態学的視点から「健康」を理解するための基礎的概念と方法を習得する。集団レベルでの健康評価を基に、健康増進や健康管理、予防に関する公衆衛生学の知識と技術を、養護学(養護教諭の実践)と関連づけて理解できる。			
授業の概要：「健康」の基礎的概念、健康を集団レベルで把握するための疫学的方法と健康管理、感染症や環境保健などの様々な領域で展開されている公衆衛生について概説する。			
<p>授業計画</p> <p>第1回：健康に生きるとは ライフコースから考える健康</p> <p>第2回：さまざまな健康観・病気観、健康という価値、公衆衛生とは</p> <p>第3回：日本人の健康像・疾病像1 人口構造の転換とその要因、日本人の人口と死亡・出生の動向</p> <p>第4回：日本人の健康像・疾病像2 日本人の疾病像・死因像、保健医療制度の変化、健康転換</p> <p>第5回：健康指標1 様々な健康指標、ハイリスク・ストラテジーとポピュレーション・ストラテジー</p> <p>第6回：健康指標2 エクセルで年齢調整死亡率（直接法、間接法）を算出してみよう（演習）</p> <p>第7回：疫学の考え方・方法1 記述疫学、ケース・コントロールスタディ</p> <p>第8回：疫学の考え方・方法2 コホートスタディ、相対危険、相対危険の計算（演習）</p> <p>第9回：ライフスタイルと健康 生活習慣の健康影響、生活習慣病のリスクファクターと予防</p> <p>第10回：感染症とその対策1 感染症の歴史、様々な感染症</p> <p>第11回：感染症とその対策2 感染と汚染、感染経路と予防・対策、学校感染症</p> <p>第12回：健康管理と健診・検診 健診と検診の違い、鋭敏度、特異度、擬陽性、擬陰性</p> <p>第13回：環境と健康1 環境とは、量－反応関係、環境問題の原点・日本の公害</p> <p>第14回：環境と健康2 生態系と健康、地球規模の環境問題、SDGs、ヘルス・コミュニケーション</p> <p>テスト</p>			
テキスト なし 配布資料			
参考書・参考資料等 随時紹介			
<p>学生に対する評価 課題の遂行とテストなどにより評価する</p> <p>課題（10%）、テスト（80%）、授業での発言（10%）</p>			

授業科目名：衛生・公衆 衛生学A	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 佐見由紀子 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 保健体育、中学校及び高等学校 保健) 養護に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・衛生学及び公衆衛生学（中学校及び高等学校 保健 中学校及び高等学校 保健体育） ・衛生学及び公衆衛生学（予防医学を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 <p>公衆衛生の中心となる疫学の考え方を基に、子どもに多くみられる病気を中心に、様々な病気の特徴やその予防法について理解するとともに、集団の健康を守るための社会制度や取り組みについて理解することを目標とする。疫学の考え方や社会的な健康とは何かを説明することができる。</p>			
授業の概要 <p>具体的な疾病を例に、公衆衛生の中心となる疫学の考え方を理解する。健康を守るための個人的、社会的な対策、取り組みにはどのようなものがあるか、具体例をもとに理解し、保健体育教員として学校現場における保健の授業、学校保健活動を推進する力を身に付けられるようにする。</p>			
授業計画 第1回：衛生・公衆衛生とは？結核の歴史的変遷と現状を学ぶことを通して再興感染症について 第2回：COVID-19などを例に新興感染症について 第3回：新興感染症出現時の人、社会における変化とその対策について 第4回：HIV・AIDSを通して、性感染症について 第5回：母子保健～妊婦、乳幼児の健康を守る取り組み、10代の望ましい妊娠の防止について 第6回：学校保健～健康教育とヘルスプロモーション活動について 第7回：学校保健～子どもに多い感染症について 第8回：生活習慣病予防～がん、動脈硬化予防について 第9回：環境と健康～水俣病に学ぶ 第10回：環境と健康～イタイイタイ病に学ぶ 第11回：高齢者の健康を守るために～認知症予防と介護保険 第12回：健康の定義、ウェルネスの概念について～社会的な健康とはどのようなものか？ 第13回：衛生・公衆衛生学の学びを生かす～高校保健授業における発問・クイズ作成 第14回：衛生・公衆衛生学の学びを生かす～高校保健授業における発問・クイズ発表、評価及び公衆衛生上の課題			

テキスト
清水忠彦・佐藤拓代編集「わかりやすい公衆衛生学第4版」ヌーベルヒロカリ、2020年
参考書・参考資料等
中学校、高校保健教科書、中学校学習指導要領解説保健体育編、高等学校学習指導要領解説体育・保健体育編
学生に対する評価
授業のリアクションペーパー、評価票などの記述内容20%、高校生向け発問・クイズ作成の取り組み、内容20%、数回の小テスト20%、最終レポート40%

授業科目名：衛生・公衆 衛生学B	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 佐見由紀子 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 保健体育、中学校及び高等学校 保健) 養護に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・衛生学及び公衆衛生学(中学校及び高等学校 保健 中学校及び高等学校 保健体育) ・衛生学及び公衆衛生学(予防医学を含む。)		
授業のテーマ及び到達目標 <p>公衆衛生の中心となる疫学の考え方を基に、子どもに多くみられる病気を中心に、様々な病気の特徴やその予防法について理解するとともに、集団の健康を守るための社会制度や取り組みについて理解することを目標とする。疫学の考え方や社会的な健康とは何かを説明することができる。</p>			
授業の概要 <p>具体的な疾病を例に、公衆衛生の中心となる疫学の考え方を理解する。健康を守るための個人的、社会的な対策、取り組みにはどのようなものがあるか、具体例をもとに理解し、保健体育教員として学校現場における保健の授業、学校保健活動を推進する力を身に付けられるようにする。</p>			
授業計画 第1回：衛生・公衆衛生とは？結核の歴史的変遷と現状を学ぶことを通して再興感染症について 第2回：COVID-19などを例に新興感染症について 第3回：新興感染症出現時の人、社会における変化とその対策について 第4回：HIV・AIDSを通して、性感染症について 第5回：母子保健～妊婦、乳幼児の健康を守る取り組み、10代の望ましい妊娠の防止について 第6回：学校保健～健康教育とヘルスプロモーション活動について 第7回：学校保健～子どもに多い感染症について 第8回：生活習慣病予防～がん、動脈硬化予防について 第9回：環境と健康～水俣病に学ぶ 第10回：環境と健康～イタイイタイ病に学ぶ 第11回：高齢者の健康を守るために～認知症予防と介護保険 第12回：健康の定義、ウェルネスの概念について～社会的な健康とはどのようなものか？ 第13回：衛生・公衆衛生学の学びを生かす～高校保健授業における発問・クイズ作成 第14回：衛生・公衆衛生学の学びを生かす～高校保健授業における発問・クイズ発表、評価及び公衆衛生上の課題			

テキスト
清水忠彦・佐藤拓代編集「わかりやすい公衆衛生学第4版」ヌーベルヒロカリ、2020年
参考書・参考資料等
中学校、高校保健教科書、中学校学習指導要領解説保健体育編、高等学校学習指導要領解説体育・保健体育編
学生に対する評価
授業のリアクションペーパー、評価票などの記述内容20%、高校生向け発問・クイズ作成の取り組み、内容20%、数回の小テスト20%、最終レポート40%

授業科目名： 学校安全・救急処置	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：内山有子 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健 体育、中学校及び高等学校 保健）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・学校保健（小児保健、精神保健、学校安全及び救急処置を含む 。）		
授業の到達目標及びテーマ：学校教員として児童生徒の安全と生命を守るために必要な知識および応急手当などの手技を修得することを到達目標とする。			
授業の概要：学校現場で発生する可能性がある急病やけが、学校事故などの現状を学び、的確な対応ができるようになるための知識、危機管理や応急手当の技術などを学習する。 また、慢性疾患やアレルギーなどがある子どもの増加など多様化する健康課題に対して教員が取るべき対応策や授業時の工夫、事故やケガを防止するための保健指導などについて考え、子どもが学校で安全かつ健やかに育つための教員の役割などについて学ぶ。			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーションと授業概要の説明</p> <p>第2回：応急手当の基礎知識と救命の連鎖</p> <p>第3回：年齢別に起こりやすい事故と疾患</p> <p>第4回：応急手当の基礎知識と対応法①心肺蘇生法とAED</p> <p>第5回：応急手当の基礎知識と対応法②止血法と包帯法</p> <p>第6回：応急手当の基礎知識と対応法③アレルギー</p> <p>第7回：応急手当の基礎知識と対応法④内科的疾患</p> <p>第8回：応急手当の基礎知識と対応法⑤外科的疾患</p> <p>第9回：応急手当の基礎知識と対応法⑥スポーツ外傷</p> <p>第10回：応急手当の基礎知識と対応法⑦やけど・咬傷・毒物・中毒</p> <p>第11回：応急手当の基礎知識と対応法⑧熱中症・低体温症・凍傷</p> <p>第12回：危機管理と災害への備え</p> <p>第13回：学校事故と学校安全</p> <p>第14回：学修到達目標の確認と評価</p>			
テキスト 特に指定しない			
<p>参考書・参考資料等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アトラス応急処置マニュアル原書第9版訳増補版 山本保博・黒川顯監訳（南江堂） ・史上最強カラー図鑑 プロが教える人体のすべてがわかる本 竹内 修二監修（ナツメ社） 			

- ・【改訂6版】救急蘇生法の指針2020 市民用・解説編（へるす出版）
- ・初心者のためのフィジカルアセスメント-救急保健管理と保健指導- 永井利三郎医学監修（東山書房） その他、授業内で適宜紹介する。

学生に対する評価

学修到達目標に達しているかどうかを単位認定の基準となる。

評価方法：筆記試験による評価（70%）

課題等の提出など平常点による評価（30%）

- ・課題等では、ワークシートなどを用いて各授業回における理解度を確認する。
- ・平常点は、授業に取り組む態度等を総合的に判断して評価する。

授業科目名：体育理論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 鈴木明哲
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校および高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>中学校および高等学校の「学習指導要領」に示された「体育理論」の授業について、その目的や内容を理解することをねらいとする。</p> <p>この授業の履修を通じて、受講生が「体育理論」の目的と内容を理解し、中学校や高等学校の保健体育科で実践できるようになることを到達目標とする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>授業はディスカッションやプレゼンテーションを活用しながら実施する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：学習指導要領に示された「体育理論」の授業について</p> <p>第2回：「体育理論」の授業目的について</p> <p>第3回：「体育理論」の授業で扱う内容について</p> <p>第4回：授業内容に関する基本的事項の確認（1）人間と運動</p> <p>第5回：授業内容に関する基本的事項の確認（2）スポーツの始まりと変遷</p> <p>第6回：授業内容に関する基本的事項の確認（3）文化としてのスポーツ</p> <p>第7回：授業内容に関する基本的事項の確認（4）オリンピックと国際理解</p> <p>第8回：授業内容に関する基本的事項の確認（5）スポーツと経済</p> <p>第9回：授業内容に関する基本的事項の確認（6）ドーピングとスポーツ倫理</p> <p>第10回：授業内容に関する基本的事項の確認（7）生涯スポーツの見方・考え方</p> <p>第11回：テキストに示された指導案の確認：中学校の事例</p> <p>第12回：テキストに示された指導案の確認：高等学校の例</p> <p>第13回：模擬授業（1）文化としてのスポーツ</p> <p>第14回：模擬授業（2）生涯スポーツの見方・考え方</p> <p>期末試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>佐藤豊・友添秀則「楽しい体育理論の授業をつくろう」大修館書店</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>特になし</p>			

学生に対する評価

期末試験40%、レポート30%、プレゼンテーション20%、授業への参加態度10%

授業科目名：学校部活動 総論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：塩多雅矢 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校および高等学校 保健 体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせ た内容に係る科目		
授業のテーマ及び到達目標 部活動指導員の制度ができるなど、部活動が学校外への扉を開いている。その背景には教員の 労働過多への対策も含まれている。部活動の位置付けや現状を知り、より良い運営のために必 要な知識を得ること目標に、講義を展開する。			
授業の概要 前半は学校や社会における位置づけや現状など部活動にまつわる基礎知識を、その後は安全管 理や責任の所在、どのように指導の働きかけをするのかなど、運営の上で必要な知識を伝える 。授業内では、部活動の運営を考察するワークを実施、これを評価の対象とする。			
授業計画 第1回：教育の一環？～学校での位置付け 第2回：社会の一員？～社会的な位置付け 第3回：脱・根性論？～部活動の変遷 第4回：人生に役立つ？～部活動を通じた効果 第5回：部活はブラック？～顧問の抱える問題 第6回：脱・ブラック？～部活動指導員のシステム 第7回：危機回避①部活動の安全管理 第8回：危機回避②部活動に関わる法律知識 第9回：成長へ導く①発達に合わせた指導 第10回：成長へ導く②練習の組み立て方 第11回：成長へ導く③動機づけの基礎知識 第12回：指導者のあり方①効果的なコーチング 第13回：指導者のあり方②チームマネジメント 第14回：指導者のあり方③適切な言葉選び			
テキスト 特になし			
参考書・参考資料等 友添秀則「運動部活動の理論と実践」大修館書店、2016			
学生に対する評価 毎回の授業で提示する課題の提出率で評価をする（7～8点×14回）			

授業科目名： 中等保健体育科教育法 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 佐藤善人 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 保健体育)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>豊かなスポーツライフを実践する資質・能力の基礎を育て、健康の保持増進と体力向上を図り、楽しく明るい生活を営むための態度を育む保健体育授業のあり方を学ぶことができる。また適切な運動の経験と健康・安全への理解が、豊かなスポーツライフの基礎的能力となることを理解し、そういった資質・能力を育むための保健体育授業を計画・実施できるよう、指導案の作成・授業の展開について学ぶことができる。2年次秋学期に実施する保健体育科模擬授業演習Bにおける模擬授業づくりにつなげる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>身体の教育、運動による教育、運動の教育と変遷してきた保健体育授業の背景を概観する。その上で、現在求められる「目標」「内容」「方法」をとらえ、運動・スポーツ実践によって生涯を通じて健康・安全で活力のある生活を送るための基礎を養う保健体育授業づくりに具体的について学ぶ。アクティブラーニングを用いたり、授業映像を多く視聴(情報通信技術の活用を含む)したりしながら、学生が主体的・対話的に深く学ぶ授業を展開する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：なぜ保健体育科教育法を学ぶのか</p> <p>第2回：保健体育は何を目指すのか① ～身体の教育</p> <p>第3回：保健体育は何を目指すのか② ～運動による教育</p> <p>第4回：保健体育は何を目指すのか③ ～運動の教育</p> <p>第5回：保健体育は何を目指すのか④ ～体力・運動能力低下、二極化の問題から</p> <p>第6回：保健体育は何を教えるのか① ～生涯スポーツと文化としてのスポーツ</p> <p>第7回：保健体育は何を教えるのか② ～プレイ論</p> <p>第8回：保健体育は何を教えるのか③ ～フロー理論</p> <p>第9回：保健体育は何を教えるのか④ ～運動の特性論</p> <p>第10回：保健体育ではいかに教えるのか① ～学習の計画の仕組み(教材研究、学習指導案の作成)</p> <p>第11回：保健体育ではいかに教えるのか② ～年間指導計画と単元指導計画の考え方(教材研究、学習指導案の作成)</p> <p>第12回：保健体育ではいかに教えるのか③ ～本時の展開の実際(模擬授業の実施、情報通信技術の</p>			

活用)

第 1 3 回：保健体育ではいかに教えるのか④ ～学習形態と学習環境(模擬授業の実施、情報通信技術の活用)

第 1 4 回：保健体育ではいかに教えるのか⑤ ～好みにさせる・嫌いにさせない評価のあり方

テキスト

鈴木秀人他 第二版中学校・高校の体育授業づくり入門, 学文社

参考書・参考資料等

中学校学習指導要領解説保健体育編 (平成29年6月、文部科学省), 高等学校学習指導要領解説保健体育編 (平成30年、文部科学省)

授業中に適宜資料を配付する。

学生に対する評価

評価レポート(30%)、小レポート(25%)、授業態度(45%)

授業科目名：中等保健 体育科教育法Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：鈴木 秀人 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健 体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 中学校・高等学校において保健体育の専門家として教育を実践していくために、必要となる基礎的な知識を習得しながら、自分自身で実践の在り方がある程度構想できるようになる。			
授業の概要 保健体育の授業や運動部活動の指導をめぐる種々の問題について、映像の視聴、研究論文の講読、少人数でのディスカッション、模擬授業などを通して検討する。			
授業計画 第1回：本授業の目的と授業者の問題意識～保健体育教師の専門性とは何かを問う 第2回：1. 保健体育の「目標」をめぐる問題について考える ①組体操の目標は何か？ 第3回： ②体育の目標は体力づくりか？ 第4回： ③体育の現在そして将来 情報通信技術を活用した運動への新たな関わり 小テスト① 第5回：2. 保健体育の内容をめぐる問題について考える ①体育の内容は運動技術の習得か？ 第6回： ②公式ルールでプレーすることを学ぶべきなのか？ ルールづくり(教材研究) 第7回： ③ルールの工夫を考える視点としての攻防のバランス 環境づくり(教材研究) 第8回： ④学習指導案の作成と模擬授業を通じた検討 小テスト② 第9回：3. 保健体育の方法をめぐる問題を考える ①踊れない生徒の指導方法を模擬授業で考える 第10回： ②専門家としての方法を「教育技術法則化運動」の問題提起を手がかりに議論する 第11回： ③運動部の指導に体罰は必要か？ 第12回： ④問われるべきことは何か 小テスト③ 第13回：4. 専門家として学習指導要領にどう向き合うべきか？ 第14回：授業のまとめと定期試験			
テキスト 教科教育学シリーズ6 体育科教育（鈴木秀人ほか編著、一藝社）			
参考書・参考資料等 平成29年告示中学校学習指導要領（文部科学省）、平成30年告示高等学校学習指導要領（文部科学省）ほか、適宜紹介する。			
学生に対する評価 授業中に3回行う小テスト（60%）と、最終回に行う試験（40%）により評価する。			

授業科目名：中等保健 体育科教育法Ⅲ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 佐見（小出）由紀子
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 保健体育)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>学生は本講義を履修するまでに、実技や講義などを通して様々なスポーツ指導に関わる学びを多く得ている。例えば心理学やスポーツバイオメカニクスなどは、保健体育授業のどの場面でどう活用しながら授業を展開したらよいのか、これまでの学びを関連づけ合う必要がある。生徒に豊かなスポーツライフの基礎的な能力を育むために、日進月歩新たな知見が生まれるスポーツ科学を活用し、授業者としてどのように授業を構想すればよいのかを具体的に学び、その方策を導き出すことを目的とする。アクティブラーニングの手法を用い、考えを交流したり実践したりしながら、主体的・対話的で深い学びを導き出す。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>これまでの大学での学びを整理し、それらを知識として終わらせるのではなく、授業づくりに活用（情報通信技術の活用を含む）する必要性を理解する。その後、各スポーツ科学について概観する。前時に課題を提示し、例えば心理学の学びを整理して参加し、心理学を用いることでどういった授業が構想できるかをグループで話し合う。さらにそれぞれの学びを統合し、年間指導計画、単元指導計画、そして本時案を作成する。秋学期に始まる教育実習で実際に活用できる学習の場とする。</p> <p>なお、第2回から第10回は、すべてスポーツ科学を活かした教材研究の時間を設け、具体的な指導法を検討する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：保健体育教師に求められる資質・能力とは ～スポーツ科学を活用する必要性</p> <p>第2回：スポーツ科学を活かす① ～スポーツ心理学</p> <p>第3回：スポーツ科学を活かす② ～発育発達学</p> <p>第4回：スポーツ科学を活かす③ ～運動生理学</p> <p>第5回：スポーツ科学を活かす④ ～スポーツバイオメカニクス</p> <p>第6回：スポーツ科学を活かす⑤ ～教育学</p> <p>第7回：スポーツ科学を活かす⑥ ～アダプテッドスポーツ</p> <p>第8回：スポーツ科学を活かす⑦ ～ICT機器の活用</p> <p>第9回：スポーツ科学を活かす⑧ ～リスクマネジメント</p>			

第10回：スポーツ科学を活かす⑨ ～集団づくり・マネジメント

第11回：保健体育授業の構想① ～授業参観

第12回：保健体育授業の構想② ～スポーツ科学を活用したカリキュラムマネジメント

第13回：保健体育授業の構想③ ～スポーツ科学を活用した学習指導案の作成

第14回：保健体育授業の構想④ ～模擬授業とまとめ

テキスト

鈴木秀人他 第二版 中学校・高校の体育授業づくり入門、学文社

佐藤善人編 子どものやる気を引き出すスポーツ指導、学文社

参考書・参考資料等

中学校学習指導要領解説保健体育編（平成29年6月、文部科学省）、高等学校学習指導要領解説

保健体育編（平成30年、文部科学省）

授業中に適宜資料を配付する。

学生に対する評価

作成された年間指導計画、単元指導計画、本時案(30%)、小レポート(35%)、授業態度(35%)

授業科目名：中等保健 体育科教育法Ⅳ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 佐藤善人 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 保健体育)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>中学校、高等学校において生徒が自らの生活を振り返り、生涯にわたり健康な生活を送ることのできる保健の学力を身に付けられる授業を創出するために、保健の目標や内容、教材研究や学習指導案作成法を理解し、模擬授業を通して、生徒が意欲的に考えたり議論したりできる授業内容や教材を検討する。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>学習指導要領の小学校から高校までの保健授業の内容を分析し、教師による模擬授業を参観したり、過去の保健の教材・授業の分析を行ったりし、よりよい保健の授業を創出できるようにする。授業の目標設定や内容に即した教材研究および学習指導案作成法を理解する。その後、各自、テーマに応じて学習指導案を作成する。さらに、指名された20名程度の学生が模擬授業を行い、教材や学習形態（情報通信技術の活用を含む）、指導法について議論を行う。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：保健の授業における今日的課題、教師による模擬授業の演示（情報通信技術の活用を含む）</p> <p>第2回：保健の学力と目標について、学習指導要領・教科書分析</p> <p>第3回：保健の内容構成原理について</p> <p>第4回：保健の授業づくり、教材開発の視点（情報通信技術の活用を含む）</p> <p>第5回：保健の模擬授業視聴を通して、学習指導案を批判的に分析し、よりよい学習指導案を検討する</p> <p>第6回：学習指導案の作成：担当内容の学習指導要領および教科書内容の理解と学習内容の焦点化</p> <p>第7回：学習指導案の作成：学習の展開の作成、教材の吟味</p> <p>第8回：模擬授業の実施と評価～心身の発育・発達、適応能力とその限界</p> <p>第9回：模擬授業の実施と評価～交通事故防止、健康の成り立ち</p> <p>第10回：模擬授業の実施と評価～感染症の予防、生活習慣病の予防、薬物乱用防止</p> <p>第11回：模擬授業の実施と評価～医薬品の適正使用、健康な社会づくり（情報通信技術の活用を含む）</p> <p>第12回：模擬授業の実施と評価～行動選択と意思決定、高齢者と健康（情報通信技術の活用を含む）</p> <p>第13回：模擬授業の実施と評価～労働者と健康、思春期の発達と家族計画（情報通信技術の活用を含む）</p> <p>第14回：保健の授業における評価、今後の課題と展望（情報通信技術の活用を含む）</p>			

テキスト

中学校学習指導要領解説 保健体育編（平成29年6月、文部科学省）および
高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編（平成30年、文部科学省）

参考書・参考資料等

新版保健の授業づくり入門（森昭三・和唐正勝編、大修館書店）

学生に対する評価

授業のリアクションペーパーおよび模擬授業評価表の記入内容（20%）、学習指導案の作成および模擬授業の実施（60%）、レポート作成（20%）

授業科目名：健康と栄養	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：中村 禎子 担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健 養護に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・生理学、栄養学（中学校） ・「生理学、栄養学、微生物学、解剖学」（高等学校） ・栄養学（食品学を含む。）（養護）		
授業のテーマ及び到達目標 ①食事の意義と生命活動との関連性、食の安全性について理解する。 ②養護教諭として、児童・生徒の食生活や栄養状態を支援するために必要な栄養に関する基礎知識を修得する。 ③自分自身の健康状態を維持するための栄養について理解し、実践できる。			
授業の概要 食事の意義と生命活動の関連性を解説し、健康と栄養に関連する新しいトピックを幅広く紹介する。			
授業計画 第1回：講義についてのオリエンテーション、健康・栄養・食事の概念【講義・フィードバック】 第2回：我が国の疾病構造の変化と栄養問題の変遷、児童・生徒の近年の健康上の問題【講義・フィードバック】 第3回：食の安全性と食品表示、食品の機能性【講義・プレゼンテーション】 第4回：生体成分と栄養素との関連性、栄養素の体内への取り込み【講義】 第5回：栄養と恒常性の維持との関連性、バランスの考え方【講義・フィードバック】 第6回：栄養素・食品・健康の保持の相互関連性を学ぶー1（水分）【講義・プレゼンテーション】 第7回：栄養素・食品・健康の保持の相互関連性を学ぶー2（エネルギー、糖質） 第8回：栄養素・食品・健康の保持の相互関連性を学ぶー3（脂質、タンパク質）【講義・プレゼンテーション】 第9回：アレルギー食品とアレルギーへの対応（最新情報の提供を含む）【講義・フィードバック】 第10回：栄養素・食品・健康の保持の相互関連性を学ぶー4（ビタミン類）【講義・プレゼンテーション】 第11回：栄養素・食品・健康の保持の相互関連性を学ぶー5（ミネラル類）【講義・プレゼンテーション】 第12回：栄養素・食品・健康の保持の相互関連性を学ぶー6（難消化性成分の生理作用）【講義】 第13回：学校での食事と食育【ワークとプレゼンテーション】 第14回：まとめと課題・定期試験			

テキスト

授業時間に、適宜、資料を配布し、指示する。

参考書・参考資料等

- 基礎栄養学改定第6版第1刷、監修：（国研）医薬基盤・健康・栄養研究所、編集：柴田克己／合田敏尚、南江堂、2020年3月
- 現代生命科学第3版、編集：東京大学生命科学教科書編集委員会、羊土社、2020年3月第3版第1刷
- 子どもの食と栄養第2版、編集太田百合子／堤ちはる、羊土社、2020年8月31日

学生に対する評価

授業内課題提出50%、まとめと課題・定期試験30%、プレゼンテーション20% とし、総合的に判断する。総合評価が60%以上の場合に単位を認定する。

授業科目名：解剖学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：石原研治 担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健 養護に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・生理学・栄養学（中学校） ・「生理学、栄養学、微生物学、解剖学」（高等学校） ・解剖学及び生理学（養護）		
授業のテーマ及び到達目標 からだがどのようなしくみで成り立っているのか理解できる。 各臓器，器官の位置や役割について説明できる。			
授業の概要 解剖学は生理学とともに医学の中でも最も基礎となる学問です。解剖学を十分理解することは、その後に学ぶ医学，看護学，養護学など養護教諭として必要な知識を身につけるための土台を作ることとなります。 授業は講義形式で行います。			
授業計画 第1回：オリエンテーション 第2回：栄養の消化と吸収 [1] 口腔 胃 第3回：栄養の消化と吸収 [2] 腸，膵，肝，胆 第4回：呼吸と血液のはたらき 第5回：血液の循環とその調節 第6回：体液の調節と尿の生成 第7回：内蔵機能の調節 第8回：からだの支持と運動 [1] 体幹の骨・筋 第9回：からだの支持と運動 [2] 上肢の骨・筋 第10回：からだの支持と運動 [3] 下肢の骨・筋 第11回：情報の受容と処理 [1] 中枢神経 第12回：情報の受容と処理 [2] 感覚器 第13回：外部環境からの防御 第14回：授業のまとめと定期試験			
テキスト 「系統看護学講座 解剖生理学」(第10版) 坂井建雄・岡田隆夫 医学書院 4180円			
参考書・参考資料等 適宜プリントを配布します。			

学生に対する評価

定期試験を実施しその成績で評価します。

授業科目名：生理学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：平山 哲 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健） 養護に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・生理学・栄養学（中学校） ・「生理学、栄養学、微生物学、解剖学」（高等学校） ・解剖学及び生理学（養護）		
授業のテーマ及び到達目標 人体の基本構造と各臓器の主な役割を学ぶ。			
授業の概要 人体の構造と各臓器の特徴についての基本事項を学び、生命活動の基盤となる血液、循環、呼吸、消化、尿生成とそれらを調節する神経系および内分泌系のシステムを理解する。各臓器やシステムを系統的に学ぶことにより、人体の生理機能の全体像を理解し、種々の疾病時における病態を理解するための基礎的な知識が身につくよう学習する。			
授業計画 第1回： 「ガイダンス」 「人体の構造」 「細胞と組織」 第2回： 「遺伝子」 第3回： 「運動器（骨・関節・筋肉）」 第4回： 「内分泌・代謝1（ホルモン）」 第5回： 「内分泌・代謝2（糖尿病・脂質異常症）」 第6回： 「循環器（心臓と血管）」 第7回： 「血液と体液」「免疫」 第8回： 「呼吸器（肺と呼吸のしくみ）」 第9回： 「消化器1（胃・小腸・大腸）」 「消化器2（肝・胆・膵）」 第10回： 「泌尿器系と腎臓」 第11回： 「生殖と発生」 第12回： 「脳と神経」 第13回： 「感覚器（眼・耳・鼻・皮膚）」 第14回： 「エネルギー代謝と体温調節」 「テストおよび解説、全体のまとめ」			
テキスト 人体の構造と機能 解剖生理学 第3版 河田光博／三木健寿／鷹股 亮・編 講談社			
参考書・参考資料等 「系統看護学講座」 準拠 解剖生理学 ワークブック 坂井建雄 医学書院			

学生に対する評価

授業への取組み (60%) , 小テスト (20%) , 期末テスト (20%)

授業科目名：保健行動科学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：朝倉隆司 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健） 養護に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 衛生学・公衆衛生学（中学校及び高等学校） ・ 衛生学及び公衆衛生学（予防医学を含む。）（養護） 		
授業の到達目標及びテーマ：人間の健康現象や保健医療の問題に対する行動科学的アプローチの基本を理解し、健康教育や健康相談活動、保健指導に活用できる力を身につける。			
授業の概要：行動の学習理論、保健行動論や健康問題への行動科学的アプローチ、バイオエシックスに関する概説を行う。			
<p>授業計画</p> <p>第1回：健康課題の変遷（疫学転換、健康観の転換）</p> <p>第2回：健康教育・ヘルスプロモーションにおける行動科学的アプローチの必要性</p> <p>第3回：保健行動論の定義と歴史的展開、行動の学習理論</p> <p>第4回：保健行動モデル（1）ヘルス・ビリーフ・モデル</p> <p>第5回：保健行動モデル（2）計画的行動理論</p> <p>第6回：保健行動モデル（3）トランス・セオレティカル・モデル</p> <p>第7回：保健行動モデル（4）変容のステージへの介入</p> <p>第8回：保健行動モデル（5）プロシード・プレシードモデルとヘルスプロモーション</p> <p>第9回：保健行動モデル（6）保健行動モデルを理解するための鍵概念</p> <p>第10回：ストレスと健康（1）ストレスとは、ストレスの生理学的基盤、ストレスモデル</p> <p>第11回：ストレスと健康（2）ソーシャルサポート、ストレスコーピング</p> <p>第12回：バイオエシックス（1）QOLとは、保健医療でQOLが問われる場面</p> <p>第13回：バイオエシックス（2）生命倫理とは、現代的保健医療の課題と生命倫理</p> <p>第14回：バイオエシックス（3）生命倫理の4つの原則、まとめ、授業内容の理解度の確認、質疑テスト</p>			
テキスト なし 配布資料			
参考書・参考資料等 随時紹介			
<p>学生に対する評価 課題の遂行とテストにより評価する</p> <p style="text-align: center;">課題の遂行（20%）、テスト（80%）</p>			

授業科目名：学校保健学	教員の免許状取得のための必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：竹下君枝 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健） 養護に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・学校保健（小児保健、精神保健、学校安全及び救急処置を含む。）（中学校及び高等学校） ・学校保健（養護） 		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>学校保健活動の基本について理解し、児童生徒の健康を保持増進するための具体的な活動を企画・立案、実践する能力を養う。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>学校保健の内容についてテキストや資料を使って解説する。学校保健計画や学校保健委員会などのグループ活動を通して実践的に学ぶ。また、課題解決策を身に付けるため、テーマ毎の事例について各自で考えた後、討論を行う。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：学校保健の領域と内容 第2回：学校保健計画の意義と作成の仕方 第3回：学校保健委員会の位置付けと役割 第4回：定期健康診断および各行事における健康診断 第5回：保健学習と保健指導 第6回：健康教育の必要性和効果的な進め方 第7回：思春期の精神疾患 第8回：保健室の機能と養護教諭の役割 第9回：校内の救急体制と救急処置 第10回：学校において予防すべき感染症 第11回：学校環境衛生基準と検査の方法 第12回：食に関する指導およびアレルギーの対応 第13回：特別支援教育の現状と課題 第14回：学校安全と危機管理、振り返りとまとめ</p>			
<p>テキスト</p> <p>「学校保健ハンドブック」第7次改訂（教員養成系大学保健協議会編）ぎょうせい（3300円＋税）</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>必要な資料・文献は、授業時間中に随時紹介する。</p>			

学生に対する評価

レポート (50%)、グループ学習 (30%)、授業の参加意欲・態度 (20%)

授業科目名：学校安全と 危機管理	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：渡邊正樹 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健） 養護に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・学校保健（小児保健、精神保健、学校安全及び救急処置を含む。）（中学校及び高等学校） ・学校保健（養護） 		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>学校安全および学校の危機管理に関する基礎と応用を学び、養護教諭・教諭が果たすべき役割を理解する。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>学校安全の3つの柱（安全教育，安全管理，組織活動）と3領域（生活安全，交通安全，災害安全）の内容を理解とともに，学校と地域の連携についても取り上げる。また危機管理の実践としてマニュアル作成や指導案作成を行う。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：学校安全・危機管理の意義</p> <p>第2回：学校安全活動の構造と領域</p> <p>第3回：学校安全からみた児童生徒の課題</p> <p>第4回：学校の管理下の災害と災害共済給付</p> <p>第5回：学校施設・設備の安全点検</p> <p>第6回：犯罪被害の防止</p> <p>第7回：交通安全</p> <p>第8回：学校防災（地震，津波）</p> <p>第9回：学校防災（気象災害）</p> <p>第10回：夏季の事故防止（熱中症，水の事故）</p> <p>第11回：体育・スポーツでの事故防止</p> <p>第12回：安全教育の指導案</p> <p>第13回：危機管理マニュアルの考え方と作成</p> <p>第14回：まとめ</p> <p>期末試験</p>			
テキスト 「学校安全と危機管理 三訂版」（大修館書店）			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>「生きる力をはぐくむ学校での安全教育」（文部科学省）</p>			
学生に対する評価			

小レポート50%，期末試験50%とする。

授業科目名：精神保健	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：早川 洋 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健） 養護に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・学校保健（小児保健、精神保健、学校安全及び救急処置を含む。）（中学校及び高等学校） ・精神保健（養護）		
授業のテーマ及び到達目標 現代の子どもの心にまつわる具体的な事象を取り上げながら、精神保健について学んでいく。			
授業の概要 現代の子どもたちの心に起きている具体的な問題について、保健室で実際に起きることを念頭に置きながら、具体的な事例も交えて学んでいく。教科書を読むのではなく、毎回スライドを用いて解説しながら、グループ討議も交えて理解を深めていく。			
授業計画 第1回：オリエンテーション 精神医学・精神保健 第2回：演習 精神医学・精神保健について 第3回：精神疾患について 第4回：演習 精神疾患／子どもの精神疾患について 第5回：発達障害 第6回：演習 発達障害について 第7回：外在化障害 第8回：演習 子どもの外在化障害について 第9回：内在化障害 第10回：演習 子どもの内在化障害について 第11回：保護者・アタッチメント・思春期 第12回：演習 保護者・アタッチメント・思春期について 第13回：学校メンタルヘルス活動 第14回：演習 学校メンタルヘルス活動、事例検討 実際の事例を挙げての事例検討			
テキスト 「テキストブック 児童精神医学」井上勝夫著 日本評論社 2484円 「児童青年期精神看護学」宇佐美 しおり・岡田 俊著 医歯薬出版株式会社 3672円 「子どもの精神科臨床」齊藤 万比古著 星和書店 4860円			
参考書・参考資料等 こんなとき、どうする?発達障害のある子への支援 小学校 内山 登紀夫他 ミネルヴァ書房			

自傷・自殺する子どもたち 松本 俊彦 合同出版

平成 23 年度 精神疾患等のこころの病気のある児童生徒の指導と支援の事例集 国立特別支援教育総合研究所 <https://www.nise.go.jp/cms/resources/content/123/20130313-154350.pdf>

特別支援教育指導事例集 大阪市教育局委員会 <http://www.ocec.ne.jp/shidoubu/tkbs/jireishu15.pdf>

学生に対する評価

演習50%、事例検討50%

授業科目名：小児科学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：小林京子、手塚 園江、福富理佳、青木美紀子 担当形態：オムニバス
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校保健） 養護に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・学校保健（小児保健、精神保健、学校安全及び救急処置を含む。）（中学校及び高等学校） ・学校保健（養護） 		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>小児科学の基本的知識を学習して、正常の発育・発達と異常（病気）の違いを理解する。小児によくある疾病とその治療、ケア、生活上の留意点を理解し、健康相談や保健指導に生かすための知識とケア方法を習得する。さらに、教育現場で必要な救急の知識と実践方法を習得する。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>胎児期から新生児期の疾患、遺伝性・先天性疾患、小児の糖尿病、小児期に起こりやすい感染症（ウイルス性および細菌性）、呼吸器疾患、心疾患、腎疾患、小児がん、てんかんなどの神経・筋疾患、気管支喘息、アトピー性皮膚炎、食物アレルギーなどのアレルギー疾患、不慮の事故などに関して講義する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス（子どもの健康問題の特徴）：小林京子 第2回：消化器疾患：手塚園江 第3回：循環器疾患：手塚園江 第4回：腎・泌尿器疾患：手塚園江 第5回：神経・筋疾患：手塚園江 第6回：染色体異常・先天異常、新生児疾患：福富理佳 第7回：免疫・アレルギー性疾患：福富理佳 第8回：感染症—ウイルス性疾患・細菌性疾患：福富理佳 第9回：呼吸器疾患：福富理佳 第10回：代謝性疾患、内分泌疾患：福富理佳 第11回：遺伝性疾患：青木美紀子 第12回：精神疾患：福富理佳 第13回：発達障害、事故・外傷、救急処置：福富理佳 第14回：血液疾患、悪性新生物：小林京子</p>			
<p>テキスト</p> <p>看護学テキスト 病態・治療論14 小児疾患，真部淳，松藤凡，小林京子（編），南江堂 2019</p>			

年04月 (2600円 : 税別)
参考書・参考資料等
特になし
学生に対する評価
小テスト5回 (20%×5) を実施して総合的に評価する。

授業科目名：救急処置の 理論と演習	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：荒川雅子 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健） 養護に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・学校保健（小児保健、精神保健、学校安全及び救急処置を含む。）（中学校及び高等学校） ・学校保健（養護） 		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>ねらいは、学校現場において発生する傷病について、その緊急度・重症度を的確に判断し、対応するための知識及び技術を習得すること。そして、保健指導を含む、養護教諭独自の、教育的側面からの救急処置について学ぶこと。</p> <p>目標は、①学校現場において発生頻度の高い傷病の緊急度・重症度を見極めるための基本的知識及び対応するための基本技術を習得する。②養護教諭としての教育的対応の仕方について学び実践できるようになる。③学校救急体制の実際や医療機関等との連携の仕方を学び、学校救急体制の企画・調整ができるようになる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>学校現場において発生頻度の高い傷病の基本的知識とその対応についての基的知識・技術について。保健指導を含む養護教諭としての対応の仕方について。学校救急体制と、他機関との連携の仕方について。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：授業概要の説明・学校現場における救急処置とは(緊急度・重症度について)</p> <p>第2回：学校救急体制及びスポーツ振興センターについて</p> <p>第3回：ホスピタルワゴン（器械卓子）の設置、清潔・不潔の扱いについて</p> <p>第4回：ショック症状への対応、体位、異物除去について、担架、車椅子の使い方について</p> <p>第5回：止血法、擦過傷、切傷、刺傷、火傷についての基本的知識及び対応</p> <p>第6回：筋肉及び骨の損傷について(捻挫・骨折・打撲・脱臼・アキレス腱断裂・肉離れなど)、RICEの基本について</p> <p>第7回：目・耳・鼻・口腔の損傷について</p> <p>第8回：包帯法、三角巾法、固定法、罨法について</p> <p>第9回：頭痛(頭部打撲含む)について</p> <p>第10回：腹痛(腹部打撲含む)について</p> <p>第11回：急性アレルギー症状（食物アレルギー）への対応について</p> <p>第12回：感染性胃腸炎について（吐物処理）</p> <p>第13回：心肺蘇生法及びAEDについて</p> <p>第14回：実技のまとめ、実技試験及びその解説</p>			

筆記テスト
テキスト 『養護教諭のための救急処置』加藤啓一監修 少年写真新聞社 (2200円)
参考書・参考資料等 随時紹介する
学生に対する評価 実技テスト 30%、筆記テスト 40%、レポート 10%、授業に参加する態度・意欲 20%

授業科目名：中等保健科 教育法 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名：渡邊正樹 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 中学校保健体育科保健分野および高等学校保健体育科科目保健に関する目標・内容・方法を理解する。			
授業の概要 学習指導要領および解説の内容，保健の評価，指導法，学習指導案の基，保健の授業研究について学ぶ。			
授業計画 第 1 回：保健教育の概要 第 2 回：中学校の学習指導要領と解説 第 3 回：高等学校の学習指導要領と解説 第 4 回：保健の目標論 第 5 回：保健の内容論 第 6 回：保健の指導法 第 7 回：保健の評価方法 第 8 回：指導言と学習指導案の書き方 第 9 回：授業の実際：保健における技能の指導の工夫 第 10 回：授業の実際：保健における思考力・判断力・表現力等の指導の工夫 第 11 回：児童生徒の保健に関する学力論と実際 第 12 回：保健の授業研究：授業の記録と分析 第 13 回：保健の授業研究：介入研究の進め方 第 14 回：まとめ 定期試験			
テキスト 必要な資料は適宜配布する。			
参考書・参考資料等 中学校学習指導要領（平成29年告示）解説保健体育編，高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説保健体育編			
学生に対する評価 小レポート50%，期末試験50%とする。			

授業科目名：中等保健 科教育法Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：今関 豊一 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 保健科教育法Ⅰを踏まえ、学習指導要領、中学校保健体育科「保健分野」及び高等学校保健体育科目「保健」に示された目標と内容を理解し、具体的な授業を想定した学習指導案の作成、模擬授業の実施、授業評価の方法を身に付ける。			
授業の概要 本授業では、保健科教育法Ⅰを踏まえ中学校保健体育科「保健分野」及び高等学校保健体育科目「保健」における教材研究を十分に行ったうえで、グループ及び個人で、1時間分の学習指導案を作成する。 具体的には、以下3点を行う。 ・生徒の認識・思考、学力等の実態を視野に入れた教材研究を行う。 ・単元の特性に応じ情報通信技術を活用した学習指導案を作成する。 ・模擬授業の実施後には、参加者全員による授業の振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けるようにする。			
授業計画 第1回：オリエンテーション及び学校教育における保健（健康）教育の位置づけと役割 第2回：学習指導要領、中学校保健体育科「保健分野」・高等学校保健体育科目「保健」の目標と内容、全体構造について 第3回：中学校、高等学校で行われている授業実践の紹介 第4回：教材研究ならびに学習指導案の作成・相談(1)単元、目標、方法、教材、評価方法等の検討 中学校、高等学校で行われている授業実践の紹介 第5回：学習内容における指導上の留意点ならびに発展的学習内容、評価について 第6回：模擬授業(個人) 中学校第1学年の実施と振り返り(1) 第7回：模擬授業(個人) 中学校第2・第3学年の実施と振り返り(2) 第8回：模擬授業(個人) 高等学校第1学年の実施と振り返り(3) 第9回：模擬授業(個人) 高等学校第1・第2学年の実施と振り返り(4) 第10回：グループ中学校第1学年の教材研究ならびに学習指導案の作成・相談(1)単元、目標、方法、教材、評価方法等の検討 第11回：グループ中学校第2・第3学年の教材研究ならびに学習指導案の作成・相談(2)単元、目標、方法、教材、評価方法等の検討			

第12回：グループ高等学校第1・第2学年の教材研究ならびに学習指導案の作成・相談(3)単元、目標、方法、教材、評価方法等の検討

第13回：模擬授業中学校第1・第2学年の実施と振り返り(1) グループ1の模擬授業の実施並びに全員による振り返り

第14回：模擬授業中学校第3学年・高等学校第1・第2学年の実施と振り返り(2) グループ1の模擬授業の実施並びに全員による振り返り、まとめ・保健科教育法の授業設計の向上に向けた取り組みについて

テキスト

『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 体育編』文部科学省（162円＋税）

『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 保健体育編』文部科学省（416円＋税）

『高等学校学習指導要領（平成30年告示） 保健体育編・体育編』文部科学省（552円＋税）

参考書・参考資料等

『保健科教育法入門』（2017）大修館（1700円＋税）日本保健科教育学会

学生に対する評価

毎時の振り返り課題(20%)、学習指導案作成(60%)、模擬授業後の自己省察課題(10%)、模擬授業(10%)

授業科目名：中等保健 科教育法Ⅲ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：今関 豊一 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校保健）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>保健科教育法Ⅰ・Ⅱを踏まえ、学習指導要領、中学校保健体育科「保健分野」及び高等学校保健体育科目「保健」に示された目標と内容から学習内容を記述し、具体的な授業のための教材開発と指導法を選択して学習指導案の作成、模擬授業の実施、授業評価の方法を身に付ける。目標は、①学習内容を構築し、学習指導案を作成できる。②模擬授業を通して、保健の学習における教材開発、教師行動の能力を身に付ける。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>本授業では、保健科教育法Ⅰ・Ⅱを踏まえ、中学校保健体育科「保健分野」及び高等学校保健体育科目「保健」における学習内容の記述、教材開発を行い、指導方法とともに、授業を実施する教師行動を意図してグループ及び個人で、1時間分の学習指導案を作成し、模擬授業を行う。</p> <p>具体的には、以下3点を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習内容を学ぶことのできる教材開発を行う。その際、生徒の認識・思考、学力等の実態を踏まえる。 ・単元の特性に応じ情報機器を活用した学習指導案を作成する。 ・模擬授業の実施中は、授業評価のための情報収集を行い、参加者全員による授業の振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けるようにする。 			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション及び学校教育における保健（健康）教育と、保健の学習の位置づけ・役割</p> <p>第2回：学習指導案とは何か。中学校保健体育科「保健分野」・高等学校保健体育科目「保健」の目標と内容、全体構造と保健の学習内容の記述の仕方について</p> <p>第3回：学習内容からみた中学校、高等学校で行われている保健の授業、指導案作成(個人)・相談(1)</p> <p>第4回：教材とは何か。教材開発の方法。単元、目標、方法、教材、評価方法等と教材、指導案作成(個人)・相談(2)</p> <p>第5回：学習内容、教材と指導方法、評価について、指導案作成(個人)・相談(3)</p> <p>第6回：模擬授業(個人)中学校第1学年の実施と振り返り(1)</p> <p>第7回：模擬授業(個人)中学校第2・第3学年の実施と振り返り(2)</p> <p>第8回：模擬授業(個人)高等学校第1学年の実施と振り返り(3)</p> <p>第9回：模擬授業(個人)高等学校第1・第2学年の実施と振り返り(4)</p>			

第10回：グループ中学校第1学年の教材開発ならびに学習指導案の作成・相談(1) 単元、目標、方法、教材、評価方法等の検討、保健の学習に関連した指導(1)

第11回：グループ中学校第2・第3学年の教材開発ならびに学習指導案の作成・相談(2) 単元、目標、方法、教材、評価方法等の検討、保健の学習に関連した指導(2)

第12回：グループ高等学校第1・第2学年の教材開発ならびに学習指導案の作成・相談(3) 単元、目標、方法、教材、評価方法等の検討、保健の学習に関連した指導(3)

第13回：模擬授業中学校第1・第2学年の実施と振り返り(1) グループ1の模擬授業の実施並びに全員による振り返り、保健の学習に関連した指導の可能性(1)

第14回：模擬授業中学校第3学年・高等学校第1・第2学年の実施と振り返り(2) グループ1の模擬授業の実施並びに全員による振り返り、保健の学習に関連した指導の可能性(2)、まとめ・学校教育における保健（健康）教育と保健の学習に向けた取り組みについて

テキスト

『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 体育編』文部科学省（162円＋税）

『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 保健体育編』文部科学省（416円＋税）

『高等学校学習指導要領（平成30年告示） 保健体育編・体育編』文部科学省（552円＋税）

参考書・参考資料等

『保健科教育法入門』（2017）大修館（1700円＋税）日本保健科教育学会

学生に対する評価

毎時の振り返り課題(20%)、学習指導案作成（60%）、模擬授業後の自己省察課題（10%）、模擬授業（10%）

授業科目名：中等保健 教育法Ⅳ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：竹下君枝 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>中学校や高等学校における保健科の教育実習のため、学習指導案を作成し、実際に授業で指導を行うことができるようにする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>中学校保健体育科保健分野および高等学校保健体育科科目保健で取り上げる内容とその指導方法について実践的に学ぶ。</p> <p>保健の内容について教材研究を行い、それをもとに学習指導案を作成する。受講者は各自が模擬授業を行い、他の受講者から意見をもらった上で、指導案を改善する。なお、模擬授業では各自が必要に応じて情報通信技術が活用できるようにする。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：中等保健科教育法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲのまとめ</p> <p>第2回：学習指導要領および学習指導要領解説の確認</p> <p>第3回：中学校保健体育科保健分野の学習内容および学習活動</p> <p>第4回：高等学校保健体育科科目保健の学習内容および学習活動</p> <p>第5回：保健学習の現状と課題</p> <p>第6回：年間指導計画の立案と作成上の配慮事項</p> <p>第7回：単元計画の立案と作成上の配慮事項</p> <p>第8回：指導方法の工夫と効果的な授業スタイル</p> <p>第9回：学習目標の設定と学習指導案の作成方法</p> <p>第10回：模擬授業のための指導案作成</p> <p>第11回：模擬授業の実施①、情報通信技術（ICT）の活用</p> <p>第12回：模擬授業の実施②、話術と話し方の留意点</p> <p>第13回：模擬授業の実施③、板書の機能と留意点</p> <p>第14回：模擬授業の実施④、評価の考え方と評価方法、振り返りとまとめ</p>			
<p>テキスト</p> <p>「保健科教育法入門」日本保健科教育学会編 大修館書店（1700円＋税）</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 保健体育編』文部科学省（416円＋税）</p> <p>『高等学校学習指導要領（平成30年告示） 保健体育編・体育編』文部科学省（552円＋税）</p>			

『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 体育編』文部科学省（162円＋税）

『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校 体育』国立教育政策研究所教育課程研究センター（1,000円＋税）

『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校 保健体育』国立教育政策研究所教育課程研究センター（1,000円＋税）

学生に対する評価

レポート（30%）、学習指導案（40%）、模擬授業（30%）

授業科目名： 基礎製図	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 渡津 光司 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 技術、高等学校 工業）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・木材加工（製図及び実習を含む。）（中学校） ・工業の関係科目（高等学校）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>ものづくり産業（製造業）の現場で最も重要なものの一つに、製図により作成された図面が挙げられる。製図は、設計者が製作物の機能や構造を技術者に伝達する重要な手法である。本授業では、技術・ものづくりの教育における指導者の立場から、製作品の設計内容を指導する上で、必要な寸法や材質、加工の方法などを理解しながら、図面を通して第3者に正しく伝える能力を養う。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>技術教育や工学的なものづくりの分野において用いられている基礎的な製図に取り組み、製図に用いられている寸法記号や表記の仕方について正しく理解した上で、代表的な製作品例の中から課題を厳選し、製図およびCADの演習を行う。また、中学校学習指導要領解説技術・家庭編の内容における製作品の設計の内容についても取り扱う。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション、授業の概要と説明</p> <p>第2回：製図の基礎知識（1）製図用具と線</p> <p>第3回：製図の基礎知識（2）線の種類と用法</p> <p>第4回：製図の基礎知識（3）製図文字と平面図形</p> <p>第5回：【製図課題（1）】キャビネット図</p> <p>第6回：【製図課題（2）】等角図</p> <p>第7回：【製図課題（3）】第三角法による正投影図</p> <p>第8回：【製図課題（4）】自由課題の設計</p> <p>第9回：【製図課題（4）】自由課題の製図</p> <p>第10回：CAD/CAMの基礎知識</p> <p>第11回：3次元CADの技能</p> <p>第12回：【製図課題（5）】3次元CADにおける練習課題</p> <p>第13回：【製図課題（6）】3次元CADにおける自由課題の設計</p> <p>第14回：【製図課題（6）】3次元CADにおける自由課題の製図</p>			

テキスト

製図（文部科学省検定済教科書、実教出版、2022）

基礎製図練習ノート（副教材、実教出版、2003）

参考書・参考資料等

授業時間中に適宜指示する

学生に対する評価

製図に関する実技課題（80%）、課題レポート（20%）

授業科目名：木材加工の基礎	教員の免許状取得のための必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：大谷忠
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 技術及び高等学校 工業）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・木材加工（製図及び実習を含む。）（中学校） ・工業の関係科目（高等学校）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>本授業は、低炭素社会を実現する上で、木材が果たしている役割を多角的に知り、木材を利用する上で必要となる木材および木質材料の組織構造や物理的、力学的な性質を理解する。また、木材および木質材料の性質や特性を踏まえた上で、木材を加工する上で、広く利用されている切削加工について、その基礎的な内容について理解を深める。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>本授業の内容は、大きくは次の2つの柱から構成する。</p> <p>（1）低炭素社会を実現する上で、生活や社会で木材が果たしている役割を多角的に知り、木材を利用する上で必要となる木材および木質材料の組織構造や物理的性質、力学的な性質等の基礎的な性質や特性を理解する。</p> <p>（2）木材および木質材料の基本的な性質や特性を理解した上で、木材を加工するために広く利用されている切削加工について、その基礎を理解する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション（本授業の目的と方法、技術科における本授業の位置づけなど）</p> <p>第2回：低炭素社会と木材の利用について</p> <p>第3回：木材の組織構造（樹木実地観察，木本植物と草本植物，針葉樹と広葉樹）</p> <p>第4回：木材の組織構造（木材としての木部組織と年輪構造，針葉樹材と広葉樹材）</p> <p>第5回：木材の組織構造（セル構造としての木材利用，木材におけるナノ構造）</p> <p>第6回：木材の組織構造（木材のナノ化と新しい加工）</p> <p>第7回：木材の利用と基礎的な性質（木材の種類，木材の基礎的な性質）</p> <p>第8回：木材の物理的性質（木材の密度測定，木材の膨潤と収縮）</p> <p>第9回：木材の物理的性質（木材の含水率測定，木材と水）</p> <p>第10回：木材の力学的性質（木材の曲げと変形）</p> <p>第11回：木材の力学的性質（部材の断面形状と強度）</p> <p>第12回：木材の力学的性質（部材の使い方と組み方の構造）</p> <p>第13回：木材の切削加工の基礎（木材加工における工具と機械）</p>			

第 1 4 回：木材の切削加工の基礎（切削加工における力学）、期末試験

テキスト

木工革命-合板DL・モジュール木工-, 山下晃功（監修）, 大谷忠(編)、海青社

参考書・参考資料等

中学校学習指導要領（平成29年告示）

技術・家庭〔技術分野〕（文部科学省検定済教科書、開隆堂出版、最新版）

学生に対する評価

レポート課題（50%）、期末試験（50%）

授業科目名：木材加工の 応用 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名：大谷忠
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 技術及び高等学校 工業）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・木材加工（製図及び実習を含む。）（中学校） ・工業の関係科目（高等学校）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>本授業は、中学校学習指導要領（平成29年告示）技術・家庭技術分野の内容に示されている材料の製造技術や加工技術の側面から木材加工について理解する。また、技術科における設計・製作の実習を通して、設計の過程ではエンジニアリングデザインプロセスを学び、製作の過程では、木材加工用の工具および機械のしくみや特性、使用法について理解し、木材加工の基礎を実践的・体験的に深める。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>本授業の内容は、大きくは次の2つの柱から構成する。</p> <p>（1）木材加工の基礎となる木材の性質を理解し、木材の性質を活用したものづくりにおけるエンジニアリングデザインプロセスによる設計を理解する。</p> <p>（2）木材の切削加工の基礎を理解し、木材加工に必要な工具および機械のしくみや特性、その使用法について理解し、木材加工の基礎を実践的・体験的に深める。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション（本授業の目的と方法、技術科における本授業の位置づけなど）</p> <p>第2回：技術科における加工学習と木材加工の意義</p> <p>第3回：日本のものづくりと木材加工</p> <p>第4回：社会における木材利用と最新の木材加工</p> <p>第5回：課題の調査を通じた既存の製品の分析</p> <p>第6回：課題の調査を通じた既存の製品の分析（グループでの共有分析）</p> <p>第7回：既存の木材加工技術の分析（材料、機能、構造、加工の視点から）</p> <p>第8回：木材加工技術を利用した課題の設定</p> <p>第9回：木材加工技術を利用した詳細設計</p> <p>第10回：模型製作によるプロトタイピング</p> <p>第11回：木材加工技術を利用した課題の解決</p> <p>第12回：木材加工における工具・機械の利用</p> <p>第13回：木材加工技術を利用した課題の解決（工具・機械を用いた実習）</p>			

第 1 4 回：木材加工技術を利用した課題の解決（工具・機械を用いた実習）、定期試験

テキスト

木工革命-合板DL・モジュール木工-、山下晃功（監修）、大谷忠（編）、海青社

参考書・参考資料等

中学校学習指導要領（平成29年告示）

技術・家庭〔技術分野〕（文部科学省検定済教科書、開隆堂出版、最新版）

学生に対する評価

レポート課題（20%）、製作課題（50%）、定期試験（30%）

授業科目名：木材加工の 応用Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 3単位	担当教員名：大谷忠
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 技術及び高等学校 工業）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・木材加工（製図及び実習を含む。）（中学校） ・工業の関係科目（高等学校）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>本授業では、木材加工の応用Ⅰで学習した内容を発展させ、エンジニアリングデザインプロセスによる設計学習を深め、木材及び木質材料を素材とした加工学習を通して、生活や社会に役立つものづくりの応用課題に取り組むことを目標とする。ものづくりの課題では、CADによる設計技能を身に着けるとともに、工具・加工機械の使用法について技能の習熟を図る。木材加工における基本工作法を学ぶ中で、技術科教員として必要な実践的な技能、問題解決能力を養う。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>本授業の内容は、大きくは次の2つの柱から構成する。</p> <p>（1）技術科の指導では、実習活動における実践的な指導を行うため、エンジニアリングデザインプロセスによる設計学習や木材及び木質材料を素材とした加工学習を通して、生活や社会に役立つものづくりの応用課題に取り組む。</p> <p>（2）実習活動における実践的な指導を行うためには技能の習得が重要になるため、CADを用いた最新の設計技能の習得と工具・加工機械の使用法について技能習熟を図るとともに、問題解決能力を養い、木材加工における基本工作法を習得する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション（本授業の目的と方法）</p> <p>第2回：オリエンテーション（技術科における本授業の位置づけ）</p> <p>第3回：木材加工と伝統技術（平かんなによるミクロな切削の世界）</p> <p>第4回：手かんなの調整を通じた伝統技術の実践（平かんなによるかんな身の調整）</p> <p>第5回：手かんなの調整を通じた伝統技術の実践（平かんなによる裏金の調整）</p> <p>第6回：手かんなの調整を通じた科学的な伝統技術の理解（平かんなによる切削実習）</p> <p>第7回：課題の調査を通じた既存の製品の調査</p> <p>第8回：課題の調査を通じた既存の製品の分析</p> <p>第9回：課題の調査を通じた既存の製品の分析（グループでの分析の共有）</p> <p>第10回：課題の調査を通じた既存の製品の評価（グループでの評価の共有）</p> <p>第11回：既存の木材加工技術の分析（材料、機能の視点から）</p>			

- 第 1 2 回：既存の木材加工技術の分析（構造、加工の視点から）
 第 1 3 回：木材加工技術を利用した問題の発見
 第 1 4 回：木材加工技術を利用した応用課題の設定
 第 1 5 回：木材加工技術を利用した詳細設計
 第 1 6 回：CADを活用した詳細設計
 第 1 7 回：模型製作によるプロトタイピング
 第 1 8 回：プロトタイピングにおける模型の修正
 第 1 9 回：木材加工技術を活用した課題の解決（材料のけがき）
 第 2 0 回：木材加工技術を活用した課題の解決（部品加工）
 第 2 1 回：木材加工における工具使用の習熟（切断，穴あけ）
 第 2 2 回：木材加工における工具使用の習熟（表面の切削，打ち付け）
 第 2 3 回：木材加工における機械使用の習熟（切断，穴あけ）
 第 2 4 回：木材加工における機械使用の習熟（切削，研削）
 第 2 5 回：木材加工技術を活用した課題の解決（仮組み立て・修正）
 第 2 6 回：木材加工技術を活用した課題の解決（組み立て）
 第 2 7 回：木材加工技術を活用した課題の解決（仕上げ・塗装）
 第 2 8 回：木材加工技術を活用した問題解決活動の振り返り、製作課題

テキスト

木工革命-合板DL・モジュール木工-、山下晃功（監修）、大谷忠（編）、海青社

参考書・参考資料等

中学校学習指導要領（平成29年告示）

技術・家庭〔技術分野〕（文部科学省検定済教科書、開隆堂出版、最新版）

学生に対する評価

レポート課題（50%）、製作課題（50%）

授業科目名： 金属加工概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 3 単位	担当教員名： 坂本 智 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 技術及び高等学校 工業）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 金属加工（製図及び実習を含む。）（中学校） ・ 工業の関係科目（高等学校）		
授業のテーマ及び到達目標 我々の生活や産業に欠かすことのできない金属材料の性質や役割を理解する。本授業では様々な金属材料の特性や各種金属加工法についての理解を深め、将来技術科教員・工業科教員となった場合に正しく生徒たちに指導できるようになる。また汎用工作機械による加工についても実習を通して理解を深める。			
授業の概要 授業前半は金属材料の性質や加工法についての講義を行い、後半は金属加工の実習を行う。第1回～第8回の講義内容では身近な金属材料から工具材料までの様々な特徴や性質について学び、第9回～第14回の講義では機械加工（除去加工）の基本である切削加工・研削加工を中心に各種加工法および加工面の生成機構などについて学ぶ。			
授業計画 ※各回とも、講義・実習をそれぞれ1時限分連続して実施する。 第1回：（講義）材料の選択，（実習）安全教育 第2回：（講義）鉄系材料，（実習）ねじの作製（材料取り） 第3回：（講義）身近な非鉄金属1（銅および銅合金），（実習）ねじの作製（ねじ切り） 第4回：（講義）身近な非鉄金属2（アルミおよびアルミ合金），（実習）ねじの作製（仕上げ） 第5回：（講義）金属材料の比重と融点，（実習）構想図作成 第6回：（講義）工具材料，（実習）図面作成（組立図） 第7回：（講義）加工精度と被削性，（実習）図面作成（部品図） 第8回：（講義）金属材料の切削機構，（実習）材料取り 第9回：（講義）工具の損耗，（実習）けがき作業 第10回：（講義）仕上げ面生成機構，（実習）部品製作 第11回：（講義）砥粒加工，（実習）部品仕上げ 第12回：（講義）旋削について，（実習）組立 第13回：（講義）フライス加工について，（実習）調整 第14回：（講義）精密加工技術，（実習）仕上げ			

テキスト

授業時間中に適宜指示する。

参考書・参考資料等

金属加工が一番わかる，井上忠信，技術評論社，1,780円＋税

（工業317）新機械工作，戸倉和 他，実教出版，3,059円

学生に対する評価

小テスト（50%），製作品（30%）および製作品に関するレポート（20%）を総合的に評価する。

授業科目名： 機械工学の基礎	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 3単位	担当教員名： 望月 高昭 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 技術及び高等学校工業）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 機械（実習を含む）（中学校） ・ 工業の関係科目（高等学校）		
授業のテーマ及び到達目標 機械工学を構成する各科目を俯瞰する。また中学校技術科および高等学校工業科の両者で必要となる科目を取り上げ学習する。 以下の二点を到達目標とする： ①機械工学を構成する科目間の関係を把握する。 ②エネルギーの変換方法および伝達方法について学習する。			
授業の概要 機械工学の基板を構成する，熱力学，流体力学，材料力学，機構学を俯瞰すると共に，エネルギーの変換方法および伝達方法の概略について学習する。			
授業計画 第1回：ガイダンス 第2回：機械工学概略 第3回：機械工学を構成する主要科目概略①：工業熱力学 第4回：機械工学を構成する主要科目概略②：機構学 第5回：機械工学を構成する主要科目概略③：材料力学 第6回：機械工学を構成する主要科目概略④：流体力学 第7回：主要科目と中学校技術科および高等学校(工業)の授業 第8回：機械領域が関係するエネルギーの変換（概略） 第9回：エネルギー変換①：風車による流体のエネルギー変換の概略 第10回：エネルギー変換②：風車の駆動原理 第11回：エネルギー変換③：水車による流体のエネルギー変換の概略 第12回：エネルギー変換④：水車の駆動原理 第13回：エネルギー変換⑤：風力発電と水力発電 第14回：エネルギー変換⑥：ガスサイクルの概略（ガソリンエンジン，ディーゼルエンジン，ガスタービン） 第15回：エネルギー変換⑦：蒸気サイクルの概略（石油火力発電，石炭火力発電，地熱発電，原子力			

発電)

第16回：機械領域が関係するエネルギーの伝達（概略）

第17回：エネルギー伝達①：メカニカルなエネルギー伝達①（摩擦伝動機構と歯車機構）

第18回：エネルギー伝達②：メカニカルなエネルギー伝達②（リンク機構）

第19回：エネルギー伝達③：流体によるエネルギー伝達①（油圧機構）

第20回：エネルギー伝達④：流体によるエネルギー伝達②（流体による熱・運動エネルギーの伝達）

第21回：実習レポートの書き方，実習結果の整理方法，測定の不確かさの扱い

第22回：測定器具（ノギス，マイクロメータ）の使用方法（調整方法を含む）

第23回：実習（ノギスを用いた物体の形状測定）

第24回：実習（マイクロメータを用いた物体の形状測定）

第25回：実習（測定結果に基づく図面制作）

第26回：実習レポートについての討論（ポイント：中学生・高校生が実習可能なように「実習の方法」を書くことが出来ているか？）

第27回：実習レポートについての討論（ポイント：考察について）

第28回：授業のまとめと期末試験

テキスト

使用しない。

参考書・参考資料等

日本機械学会編，JSMEテキストシリーズ 機械工学総論，丸善

日本機械学会編，JSMEテキストシリーズ 機械工学のための力学，丸善

日本機械学会編，JSMEテキストシリーズ 流体力学，丸善

日本機械学会編，JSMEテキストシリーズ 熱力学，丸善

日本機械学会編，JSMEテキストシリーズ 材料力学，丸善

日本機械学会編，JSMEテキストシリーズ 機構学，丸善

澤武一，使いこなす測定工具，日刊工業新聞社

学生に対する評価

期末試験（90%），実習レポート（10%）

授業科目名： 機械工学A	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 望月 高昭 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 技術及び高等学校 工業）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 機械（実習を含む。）（中学校） ・ 工業の関係科目（高等学校）		
授業のテーマ及び到達目標 エネルギー変換に関わる基礎的な内容を理解する。 粘性流体の取り扱いについての理解を目標とする。			
授業の概要 流体力学について学習する。			
授業計画 第1回：ガイダンス 第2回：連続体とは（流体力学の流体と材料力学の材料の共通事項，相違事項） 第3回：流体と流れの種類，Newtonの粘性法則 第4回：流体についての質量保存則； 課題「Eulerの方法とLagrangeの方法の特徴についてまとめる」 第5回：流体粒子に作用する力 第6回：粘性流体の運動方程式； 課題「非粘性流体の運動方程式を導出する」 第7回：ポテンシャル関数と流れ関数 第8回：循環 第9回：複素速度ポテンシャル 第10回：複素速度ポテンシャルと非粘性流体の渦なし流れ； 課題「円柱回りの流線を描く」 第11回：流れの中の物体に作用する力 第12回：粘性流体の二次元的な流れ； 課題「円管内層流の速度分布を求める」 第13回：レイノルズの相似則，境界層 第14回：授業のまとめと期末試験			
テキスト 特に定めない			
参考書・参考資料等 日本機械学会編，JSMEテキストシリーズ 流体力学，丸善			
学生に対する評価			

期末試験（90%），課題点（10%）

業科目名： 機械工学B	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 望月 高昭 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 技術及び高等学校 工業）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 機械（実習を含む。）（中学校） ・ 工業の関係科目（高等学校）		
授業のテーマ及び到達目標 エネルギーの伝達（輸送）の基礎的な内容を理解する。 運動量輸送，エネルギー輸送，物質輸送の相似関係について理解することを目標とする。			
授業の概要 流体による流体の運動量・流体のエネルギー・流体に溶解している物質の輸送について学習する。これにより流体のエネルギー伝達の基礎理論を修得する。			
授業計画 第1回：ガイダンス 第2回：流体による「流体の運動量の輸送」，「流体のエネルギーの輸送」，「流体に溶解している物質の輸送」の相似関係について。 第3回：Newtonの粘性法則，Fourierの法則，Fickの第一法則を比較する 第4回：流体の物理的性質（輸送物性に焦点をあてて） 第5回：流体の質量保存則と流体による「流体の運動量」の輸送との関係 第6回：流体の質量保存則と流体による「流体のエネルギー」の輸送との関係 第7回：第6回，第7回の内容を基に流体の質量保存則と「流体に溶解している物質」の輸送との関係を導出する（演習） 第8回：流体による「流体の運動量」の輸送の方程式 第9回：流体による「流体のエネルギー」の輸送の方程式 第10回：静止流体中における「流体のエネルギー」の輸送 第11回：第10回の内容を基に静止流体中における定常的な「流体のエネルギー」の輸送の問題を解く（演習） 第12回：境界層 第13回：流体による「運動量」，「エネルギー」，「溶解している物質」の輸送に関係する自然現象および教具 第14回：授業のまとめと期末試験			
テキスト			

特になし.

参考書・参考資料等

日本機械学会編, JSMEテキストシリーズ 伝熱工学, 丸善

学生に対する評価

期末試験 (90%), 授業中に実施する演習点 (10%)

授業科目名： 電気回路	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 3 単位	担当教員名： 藤井和人 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 技術及び高等学校 工業）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・電気（実習を含む）（中学校） ・工業の関係科目（高等学校）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>学生が、小学校以前より身につけた誤概念やその後の教育により身につけてしまった誤概念を修正すること、及び、回路を構成する各素子にかかる電圧や電流を求め、小中学校で指導する内容について深く理解し、さらに、複素インピーダンスを用いた計算から各素子に流れる電流などを求めることができることを到達目標とする。更に、学生は、実習を通して、オシロスコープなどを使った測定、機器の使用方法や回路のチェック、エクセルによる理論計算に基づくグラフの作成について学ぶ。本授業を通して、学生が電気回路全般に関するセンスを身に着ける事がテーマである。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>本授業は上記のように、講義と実習から成り立ち、適宜問題や質問を行うことで誤解している内容を把握し再度説明を行いながら授業を行っている。直流回路・過渡応答・交流回路を構成する抵抗、コンデンサー、コイルの各構成要素に流れる電流を計算により求めることができるようにする。このためキルヒホッフの法則やテブナンの定理等を学ぶ。複素数や微分方程式などが必要な基礎知識となるが、これらについても授業内で扱う。学んだ内容に関して理解を深めるため実習・実験を行う。実習・実験は機器操作の他、市販の電気部品について、浮遊容量や浮遊抵抗などの影響も詳しく知ることが出来るように構成している。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第 1 回：本講義の概要及びこれまで明らかになっている電気に関する誤概念の説明</p> <p>第 2 回：直流回路、キルヒホッフの法則について</p> <p>第 3 回：キルヒホッフの法則を使った演習</p> <p>第 4 回：電源の種類とまとめ方について</p> <p>第 5 回：重ねの理</p> <p>第 6 回：テブナンの法則について</p> <p>第 7 回：過渡応答：抵抗とコンデンサー、微分方程式の解法</p> <p>第 8 回：過渡応答：抵抗とコイル</p> <p>第 9 回：過渡応答：抵抗とコンデンサーとコイル</p> <p>第 10 回：交流回路について、平均値などの概要</p> <p>第 11 回：交流回路について、実効値</p>			

第 1 2 回：リアクタンス、複素数について

第 1 3 回：複素インピーダンス

第 1 4 回：複素インピーダンスについての演習

第 1 5 回：共振回路の演習

第 1 6 回：相互インダクタンス

第 1 7 回：相互インダクタンスの演習

第 1 8 回：三相交流について

第 1 9 回：レポートの書き方、エクセルでのグラフの作製について

第 2 0 回：交流回路の実験、抵抗とコンデンサー回路の低周波領域の測定

第 2 1 回：交流回路の実験、抵抗とコンデンサー回路の高周波領域の測定

第 2 2 回：交流回路の実験、抵抗と前回と異なったコンデンサーの回路の低周波領域の測定

第 2 3 回：交流回路の実験、抵抗と前回と異なったコンデンサーの回路の高周波領域の測定

第 2 4 回：交流回路の実験、抵抗とコイルの回路の低周波領域の測定

第 2 5 回：交流回路の実験、抵抗とコイルの回路の高周波領域の測定

第 2 6 回：交流回路の実験、容量の低いコンデンサーによる共振回路

第 2 7 回：交流回路の実験、容量の高いコンデンサーによる共振回路

第 2 8 回：試験とまとめ

テキスト

特になし

参考書・参考資料等

森北出版ビジュアルアプローチ電磁気学、コロナ社改訂電気回路理論、電気回路ノート、Teams、電気回路チームにアップロードされている資料

学生に対する評価

試験（80%持ち込み不可）により、直流・交流回路の問題を課し、計算処理について算数や数学で学んだ内容が定着しているのか、基礎理論に従って問題解決が出来るのか、小中学校で扱う簡単な回路に適用できるのかといった基礎学力を確認する。実験レポート（20%）では、理論と実際を比較検討し一貫した説明が可能な仮説設定ができること、仮説を立てた内容を基に数値計算し、実験結果との一致を確認しているのを見て、科学的な思考とそれに基づく行為の程度を評価する。試験と同様で相談すると不正行為になります。この他、宿題などは点数化しません。数学が出来ないので学ぶように指導しますが、言葉だけでは実行しないので、数Ⅲ程度までの内容の数学のテスト（成績評価に関係ない）を行うことがあります。この点数が低い学生は、このままでは単位が取れません、大いに反省して数学の勉強を行うように。

授業科目名： 電子工学概論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 藤井和人 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 技術及び高校 工業）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・電気（実習を含む）（中学校） ・工業の関係科目（高等学校）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>情報化社会の基盤となっている電子回路に関して以下の項目を理解する。学生は、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 論理素子とトランジスタの関係を知る。 2. トランジスタの等価回路を理解する。 3. ブロック線図で表された回路を、オペアンプを使用して作成できるようにする。 <p>以上により、簡単なアナログ電子回路を設計できるようにする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>情報化社会の基盤となっている電気・電子回路、光信号出力・検出素子、光伝搬素子などの様々な回路の基礎は、アナログ信号を扱った電子回路に関する知識である。本講義は、これに関する理解を深める内容となっている。前半では、もっとも単純な構造を持つ半導体素子であるダイオードやトランジスタなどを使った増幅回路などについて学ぶ。後半では、電気回路で学んだ回路素子の機能とは異なるとらえ方について学ぶ。回路をブロック線図として捉えるのだが、これは制御を行う際の基礎知識の一つとなる。また、ブロック線図で表されたものを、オペアンプを使用して実際の回路にすることを学ぶ。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第 1 回本講義について</p> <p>第 2 回ダイオードについて、ダイオードを使った回路</p> <p>第 3 回トランジスタについて</p> <p>第 4 回トランジスタを使った回路（論理素子との関係）</p> <p>第 5 回3つの接地回路について</p> <p>第 6 回トランジスタの等価回路</p> <p>第 7 回トランジスタの等価回路による小信号利得</p> <p>第 8 回OPアンプについて</p> <p>第 9 回OPアンプによる帰還回路</p> <p>第 10 回OPアンプを含んだ回路設計</p> <p>第 11 回制御に関係した回路設計</p> <p>第 12 回ブロック線図</p> <p>第 13 回OPアンプを含んだ回路の安定性と制御</p>			

第 1 4 回試験とまとめ
テキスト 特になし
参考書・参考資料等 適宜配布
学生に対する評価 試験（持ち込み不可）では半導体素子の基本的な動作、増幅回路の利得計算（約47.5%）、増幅回路を使った制御回路と安定性（約47.5%）の学力検査を行う。授業内での質疑（約 5%）の評価を基に成績をつける。

授業科目名： 栽培	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 3単位	担当教員名： 荒木祐二 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 技術）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 栽培（実習を含む）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>作物・野菜の生育環境を学習し、栽培の基礎的な知識及び育成技術を習得する。また、栽培実習を通して育成技術を体得するとともに学習指導要領に示されている基本的な栽培管理ができる力を身につけるようにする。さらに、地球環境と食糧生産との関わりを学習し、栽培課題を探るとともに、その解決策について考えることができるようにする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>学習指導要領に示されている作物の生理・生態、作物を取り巻く環境を取り上げ、解説する。また、作物生産に関わる光や土壌・肥料、水、温度、気象などの要因について取り上げ、それらをコントロールする栽培技術について学習する。さらに、作物栽培と食糧生産や地球環境、国際的な農業の動向などについて説明する。調べ学習や討議、発表などを積極的に実践する。実習では、実際に野菜を栽培し、その技術を習得する内容とする。</p>			
<p>授業計画</p> <p>植物栽培の基礎知識を習得するとともに、実際に種々の作物・草花の育苗、栽培、収穫を通して栽培技能を身につける。原則として毎回講義と実習を1時限分ずつ連続して行い、必要に応じてレポートを課す。以下の括弧内の数字は授業項目を表す。</p> <p>第1回：ガイダンス（栽培用具や栽培実習における安全性について），(1)食料生産と栽培学 （実習）ジャガイモの植付け</p> <p>第2回：(2)栽培植物の起源，(3)作物の特徴と種類，(4)作物の遺伝的改良古典的育種 （実習）トウモロコシ，エダマメの播種</p> <p>第3回：(5)バイオテクノロジー遺伝子組換え作物，(6)資源植物，(7)耕地生態系 （実習）秋播き一年草の定植（ペチュニア，キンギョソウ等）の苗を花壇やプランターに定植</p> <p>第4回：(8)土壌条件①，(9)土壌条件②，(10)水条件 （実習）果菜類の露地栽培（トマト，ミニトマト，キュウリ，ゴーヤ）</p> <p>第5回：(11)気象条件，(12)生物条件・病原菌，(13)生物条件・雑草 （実習）果菜類の容器栽培（ナス，ピーマン）</p> <p>第6回：(14)農業立地と景観，(15)種物と播種，(16)苗と移植 （実習）作物管理1（摘芽，間引き，水やり，除草など）</p> <p>第7回：(17)土壌管理，(18)施肥管理，(19)水管理</p>			

<p>(実習) 春播き一年草 (サルビア, マリーゴールドなど) の播種</p> <p>第 8 回 : (20)根圏管理, (21)植物保護, (22)生長調整物質</p> <p>(実習) ペットボトルを用いた水稻の容器栽培</p> <p>第 9 回 : (23)連作と輪作, (24)作物栽培システム, (25)世界の農業類型</p> <p>(実習) 作物管理2 (病虫害防除, 追肥など)</p> <p>第 10 回 : (26)地域別農業システム, (27)環境保全型農業, (28)精密農業</p> <p>(実習) 作物管理3 (花がら摘み, 追肥, 収穫, 品質検査など)</p> <p>第 11 回 : (29)有機農業・バイオマス利用, (30)アグロフォレストリー, (31)ファイトレメディエーション</p> <p>(実習) 花壇の設計 (学校園の花壇を想定した設計, 管理技術, 評価の観点など)</p> <p>第 12 回 : (32)環境と共生の思想, (33)作物栽培をめぐる社会状況, (34)農業と自然再生</p> <p>(実習) 春播き一年草等の定植 (播種したサルビア, マリーゴールドなどを花壇やプランターに定植)</p> <p>第 13 回 : (35)施設型作物栽培, (36)遺伝子組み換え作物, (37)栽培研究と普及事業</p> <p>(実習) 栽培植物の観察 (植物の形態や成長の特徴, スケッチ等による栽培植物の観察)</p> <p>第 14 回 : (38)植物栽培の意義と生物育成の教育内容, 期末試験</p> <p>(実習) ジャガイモ, トウモロコシ, エダマメの収穫 (食味), 圃場の片付け</p>
<p>テキスト</p> <p>適宜プリントを作成し、授業資料として配布する。パワーポイントを活用する。</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>文部科学省編：中学校学習指導要領総則編、ぎょうせい、¥137</p> <p>森田茂紀・大門弘幸・阿部淳(編著)：栽培学—環境と持続的農業—、朝倉書店、¥4,950</p>
<p>学生に対する評価</p> <p>平常点評価40%、期末試験60%</p> <p>平常点評価は授業及び栽培実習への取組・態度の評価と複数回のレポートを課して行う。期末試験は栽培の基礎知識・技術及び地球環境問題と食糧生産、バイオテクノロジーなどに関する期末試験を実施する。</p>

授業科目名： 情報処理概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 江原 遥 担当形態： 単独
科 目	教科及び強化の指導法に関する科目（中学校 技術 及び 高等学校 工業）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 情報とコンピュータ（実習を含む。）（中学校） ・ 工業の関係科目（高等学校）		
授業のテーマ及び到達目標 計算機の動作を理解できるようなプログラミングの基礎基本を習得する。			
授業の概要 プログラミング言語の種類と特徴に触れ、プログラミング言語について、処理系・入出力・変数・条件分岐・繰り返し・配列などなどの一般的な事柄を理解できるよう講義し、実習も行う。			
授業計画 第1回：ガイダンス 第2回：プログラミング言語とその種類や歴史・処理系 第3回：プログラムの作り方 第4回：プログラミングー式の計算 第5回：プログラミングー画面上の出力 第6回：プログラミングー変数の使い方 第7回：プログラミングー文字列のための変数 第8回：プログラミングーキーボードからの入力 第9回：プログラミングー場合分け・繰り返し 第10回：プログラミングー繰り返し・配列 第11回：プログラミングー配列・線形探索 第12回：プログラミングー関数と使い方 第13回：プログラミングー探索と計算量 第14回：プログラミングー型・構造体やクラスとデータ処理			
テキスト 特になし			
参考書・参考資料等 新・明解C言語 入門編、柴田望洋、SBクリエイティブ 科学技術計算のためのPython入門、中久喜健司、技術評論社			
学生に対する評価			

講義中に適宜、実際にソフトウェアを作成するなどの課題を行いフィードバックを返すことは行うが、学生によって事前知識のある回が異なるため、講義中の課題を評価に入れると、事前知識がある内容が学生によって異なるにもかかわらず全員が同じペースで学ばなければならなくなり、適切な評価をしにくい。このため、講義中のソフトウェア作成課題は採点に含めず、講義14回の内容をカバーする、ソフトウェア作成を含む最終レポート課題（100%）を出し、これによって評価する。

授業科目名： 応用情報処理 I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 江原 遥 担当形態： 単独
科 目	教科及び強化の指導法に関する科目（中学校 技術及び高等学校 工業）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・情報とコンピュータ（実習を含む。）（中学校） ・工業の関係科目（高等学校）		
授業のテーマ及び到達目標 CUIの操作やサーバなど、UNIX系OSのシステムやWebの基礎について学び、実際に情報システムを開発・管理・運用していくために必要な知識を習得する。			
授業の概要 実際に情報システムを開発・管理・運用していくためには、複数の計算機の上で動作する複数のプログラムを適切に操作することが重要である。そのため、CUIの操作やサーバなど、UNIX系OSのシステムやWebの基礎について学ぶ。			
授業計画 第1回：ガイダンス 第2回：TCP/IPネットワーク 第3回：UNIX系OSとは・Linux・GUIとCUI 第4回：CUIの操作－基本的なコマンド 第5回：CUIの操作－リダイレクト・パイプ 第6回：CUIの操作－パイプ・実行中のプログラムの制御 第7回：公開鍵暗号・TLS・sshdの考え方 第8回：Webサーバの仕組み 第9回：Webサーバー－CGI・Python 第10回：Webサーバー－Python、JavaScript 第11回：データベース－関係データベースとSQL言語 第12回：データベース－データベースソフトウェア 第13回：データベース－人工知能・機械学習の考え方 第14回：情報システム・Webシステム			
テキスト 特になし			
参考書・参考資料等 実践Django Pythonによる本格Webアプリケーション開発、芝田将、翔泳社 プロになるためのWeb技術入門、小森裕介、技術評論社			

学生に対する評価

講義中に適宜、実際にソフトウェアを作成するなどの課題を行いフィードバックを返すことは行うが、学生によって事前知識のある回が異なるため、講義中の課題を評価に入れると、事前知識がある内容が学生によって異なるにもかかわらず全員が同じペースで学ばなければならなくなり、適切な評価をしにくい。このため、講義中のソフトウェア作成課題は採点に含めず、講義14回の内容をカバーする、ソフトウェア作成を含む最終レポート課題（100%）を出し、これによって評価する。

授業科目名： 応用情報処理Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 江原 遥 担当形態： 単独
科 目	教科及び強化の指導法に関する科目（中学校 技術 及び 高等学校 工業）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・情報とコンピュータ（実習を含む。）（中学校） ・工業の関係科目（高等学校）		
授業のテーマ及び到達目標 情報量・計算量などの基本的な概念を学び、アルゴリズムやデータ構造の基礎を習得する。			
授業の概要 効率的なプログラムを書くために重要な情報量や計算量といった概念を学ぶ。データ構造やアルゴリズムにより、計算量に大きな違いが出ることを、講義を通じて理解する。			
授業計画 第1回：ガイダンス 第2回：コンピュータの基本原理・メモリとデータ構造 第3回：データ構造と配列 第4回：探索－線形探索・2分探索・計算量 第5回：探索－2分探索・ハッシュ法・計算量 第6回：スタックとキュー 第7回：再帰－階乗・ユークリッドの互除法 第8回：再帰－メモ化・再帰アルゴリズムの非再帰的表現 第9回：配列のソート－単純交換ソート・単純選択ソート 第10回：配列のソート－クイックソート 第11回：配列のソート－その他のソート 第12回：データ構造－リスト・木構造 第13回：データ構造－木構造・n分木 第14回：データ構造－n分木・データ構造とその応用			
テキスト 特になし			
参考書・参考資料等 新・明解Pythonで学ぶアルゴリズムとデータ構造、柴田望洋、SBクリエイティブ Pythonで学ぶアルゴリズムとデータ構造（データサイエンス入門シリーズ）、辻慎吾（下平英寿・編）、講談社			
学生に対する評価			

講義中に適宜、実際にソフトウェアを作成するなどの課題を行いフィードバックを返すことは行うが、学生によって事前知識のある回が異なるため、講義中の課題を評価に入れると、事前知識がある内容が学生によって異なるにもかかわらず全員が同じペースで学ばなければならなくなり、適切な評価をしにくい。このため、講義中のソフトウェア作成課題は採点に含めず、講義14回の内容をカバーする、ソフトウェア作成を含む最終レポート課題（100%）を出し、これによって評価する。

授業科目名： 技術科教育法 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 坂口 謙一 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 技術）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>本授業は、中学校技術科の教師が、グローバルスタンダードに見合う普通教育の一環として、技術科の授業を営むのに必要な基本的指導力を身に付けることを目的としている。技術科の教師は、すべての中学生に、テクノロジーに関する確かな資質・能力を発達させ、Society 5.0（ソサエティ5.0）を創造する、豊かな生きる力を育まなくてはならない。本授業では、このことを基本として、履修生に次の二つの到達目標の達成を期待する。</p> <p>（1）「技術科」という教科の仕組みを制度論的に理解できるようになる。</p> <p>（2）技術科の教師の役割を目的論的に理解できるようになる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>本授業の内容は、大きくは次の二つの柱から構成する。</p> <p>（1）「技術科」という教科の法的制度を学ぶ。</p> <p>（2）教材を中核とした、技術科の教師の役割と技術科の授業づくりの課題を、「生きる力」の育成及びグローバルスタンダードに見合う普通教育としての「技術・職業教育（・訓練）」（国連）の観点から学ぶ。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第 1 回：オリエンテーション（本授業の目的と方法、教職課程における本授業の位置づけなど）</p> <p>第 2 回：プレゼンテーション：思い出に残る技術科の授業（1）中学校教員養成課程の発表及び討論（情報通信技術の活用を含む）</p> <p>第 3 回：プレゼンテーション：思い出に残る技術科の授業（2）中学校教員養成課程と小学校教員養成課程の発表及び討論（情報通信技術の活用を含む）</p> <p>第 4 回：わくわく授業 村松先生の技術科（情報通信技術の活用を含む）</p> <p>第 5 回：技術科の教育課程（1）技術科の教育課程基準</p> <p>第 6 回：技術科の教育課程（2）技術科制度の特質</p> <p>第 7 回：技術科の単元構成</p> <p>第 8 回：技術科の教材（1）媒介物としての教材</p> <p>第 9 回：技術科の教材（2）技術科教材論</p> <p>第 10 回：技術科の教育内容：技術の科学と作業</p> <p>第 11 回：技術論・技術史</p>			

第 1 2 回：技術科の学習過程

第 1 3 回：技術・職業教育の構造

第 1 4 回：まとめ及び最終テスト、学生授業アンケート

テキスト

中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 技術・家庭編（文部科学省、2017）

技術科教育（坂口謙一編著、一藝社、2014）

技術・家庭〔技術分野〕（文部科学省検定済教科書、開隆堂出版、最新版）

参考書・参考資料等

中学校学習指導要領（平成29年告示）

これ以外は、授業の中で適宜指示する。

学生に対する評価

平常点評価（プレゼンテーション、レポートなど）40%、最終テスト60%

授業科目名： 技術科教育法Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 坂口 謙一
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 技術）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>本授業は、「技術科教育法Ⅰ」に引き続いて、中学校技術科の教師が、グローバルスタンダードに見合う普通教育の一環として、技術科の授業を営むのに必要な基本的指導力を身に付けることを目的としている。技術科の教師は、すべての中学生に、テクノロジーに関する確かな資質・能力を発達させ、Society 5.0（ソサエティ5.0）を創造する、豊かな生きる力を育まなくてはならない。本授業では、このことを基本にしながら、履修生に次の二つの到達目標の達成を期待する。</p> <p>（1）技術科の授業づくりに深く関係する諸条件の基本的内容を学び、そのことを通して、技術科の重要性と特有の課題を理解できるようになる。</p> <p>（2）この諸条件のうちのとくに重要な技術科担当教員について、教材研究を中核とした教師論を学び、技術科の授業づくりに関する基本的な実践力を身につける。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>本授業の内容は、大きくは次の四つの柱から構成する。</p> <p>（1）技術科の歴史に関する基本的事項を学ぶ。</p> <p>（2）技術科の物的条件・人的条件・財政措置に関する基本的事項を学ぶ。</p> <p>（3）技術科の教育評価・評定に関する基本的事項を学ぶ。</p> <p>（4）技術科の教師の役割と技術科教師集団の取組を学ぶことを通して、教材研究を中核とした技術科教師論を深める。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション（本授業の目的と方法、教職課程における本授業の位置づけなど）</p> <p>第2回：技術科の歴史（1）誕生から1977年改定まで</p> <p>第3回：技術科の歴史（2）1989年改定以降</p> <p>第4回：技術科の人的条件</p> <p>第5回：技術科の物的条件と財政措置</p> <p>第6回：技術科の教育評価と評定</p> <p>第7回：技術科の教師（1）教材づくりの重み</p> <p>第8回：技術科の教師（2）中学生が育つ技術の学び</p> <p>第9回：技術科の教師（3）「オートマ君」から「プログラムと計測・制御」へ</p>			

第10回：技術科の授業づくりと教材【事例】中学生ロボコンと知財教育の取組
第11回：技術科の教材例（1）調査する（情報通信技術の活用、教材研究を含む）
第12回：技術科の教材例（2）整理する（情報通信技術の活用、教材研究を含む）
第13回：技術科の教材例（3）発表する（情報通信技術の活用、教材研究を含む）
第14回：まとめ及び最終テスト、学生授業アンケート

テキスト

中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 技術・家庭編（文部科学省、2017）
技術科教育（坂口謙一編著、一藝社、2014）
技術・家庭〔技術分野〕（文部科学省検定済教科書、開隆堂出版、最新版）

参考書・参考資料等

中学校学習指導要領（平成29年告示）
これ以外は、授業の中で適宜指示する。

学生に対する評価

平常点評価（レポートなど）40%、最終テスト60%

授業科目名：技術科教育 法Ⅲ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 渡津 光司 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 技術）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>本授業は、「技術科教育法」Ⅰ・Ⅱに引き続いて、中学校技術科の教師が、グローバルスタンダードに見合う普通教育の一環として、技術科の授業を営むのに必要な基本的指導力を身に付けることを目的としている。技術科の教師は、すべての中学生に、テクノロジーに関する確かな資質・能力を発達させ、Society 5.0（ソサエティ5.0）を創造する、豊かな生きる力を育まなくてはならない。本授業では、このことを基本として、履修生に次のことを期待する。①技術科の授業づくりの課題について、情報の技術に関する題材を事例として、具体的に考えることができるようになる。②技術科の授業を、自らが具体的に計画できるようになる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>本授業の内容は、大きくは次の2つの柱から構成する。</p> <p>（1）技術科における情報の技術に関する授業づくりの基本的課題を理解する。</p> <p>（2）教師が、自発的・積極的に授業計画を立てる意味を理解するとともに、技術科の学習指導案づくりに関する基本的事項を理解し、1単位時間（50分）の授業計画の基本的部分を立案することができるようになる。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション（本授業の目的と方法、教職課程における本授業の位置づけなど）</p> <p>第2回：技術科における情報の技術に関する授業（1）代表的実践例</p> <p>第3回：技術科における情報の技術に関する授業（2）教育実習生の取組（情報通信技術の活用を含む）</p> <p>第4回：技術科における情報の技術に関する授業（3）ネットワークを利用した双方向性のあるコンテンツ（教材研究を含む）</p> <p>第5回：技術科における情報の技術に関する授業（4）計測・制御（教材研究を含む）</p> <p>第6回：学習指導案とは何か～基本的構成と作成のポイント～（学習指導案作成を含む）</p> <p>第7回：授業を計画してみよう（1）本時の指導単元・位置づけ・指導目標（情報通信技術の活用、教材研究、学習指導案作成を含む）</p> <p>第8回：授業を計画してみよう（2）指導・学習過程（情報通信技術の活用、教材研究、学習指導案作成を含む）</p> <p>第9回：授業を計画してみよう（3）主要教材の開発（情報通信技術の活用、教材研究、学習指導案作</p>			

成を含む)

第 1 0 回 : 授業を計画してみよう (4) 学習指導案を仕上げる (情報通信技術の活用、教材研究、学習指導案作成を含む)

第 1 1 回 : 学習指導案の提案と相互評価 (1) 材料と加工の技術の検討 (情報通信技術の活用、教材研究、学習指導案作成を含む)

第 1 2 回 : 学習指導案の提案と相互評価 (2) 生物育成の技術の検討 (情報通信技術の活用、教材研究、学習指導案作成を含む)

第 1 3 回 : 学習指導案の提案と相互評価 (3) エネルギー変換の技術の検討 (情報通信技術の活用、教材研究、学習指導案作成を含む)

第 1 4 回 : 学習指導案の提案と相互評価 (4) 情報の技術の検討 (情報通信技術の活用、教材研究、学習指導案作成を含む)

定期試験

テキスト

中学校学習指導要領 (平成29年告示) 解説 技術・家庭編 (文部科学省、2018)

技術・家庭 [技術分野] (文部科学省検定済教科書、開隆堂出版、2021)

技術・家庭 技術分野 明日を創造する (文部科学省検定済教科書、教育図書、2021)

新しい技術・家庭 技術分野 未来を創るTechnology (文部科学省検定済教科書、東京書籍、2021)

参考書・参考資料等

中学校学習指導要領 (平成29年告示)

学生に対する評価

授業内課題の提出・達成状況 (60%)、期末試験 (40%)

授業科目名：技術科教育 法Ⅳ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：大谷 忠
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 技術）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>本授業は、「技術科教育法」Ⅰ～Ⅲに引き続いて、中学校技術科の教師が、グローバルスタンダードに見合う普通教育の一環として技術科の授業を営むのに必要な基本的指導力を身に付けることを目的としている。技術科の教師は、すべての中学生に、テクノロジーに関する確かな資質・能力を発達させ、Society 5.0（ソサエティ5.0）を創造する、豊かな生きる力を育まなくてはならない。本授業では、このことを基本として、履修生に次のことを期待する。①技術科の指導内容・方法について理解を深めるとともに、授業設計を行う上での生徒の学習評価について、基本的な理解の定着を図る。②模擬授業の実施と評価を通して、技術科の基礎的な授業実践力を身に付ける。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>本授業の内容は、大きくは次の2つの柱から構成する。</p> <p>（1）技術科における最先端の教材を用いた授業設計と学習評価について、「生活や社会を支える技術」「技術による問題解決」「社会の発展と技術」の3側面から具体的に学ぶ。</p> <p>（2）各自が作成した学習指導案に基づき、模擬授業を行い、自己評価及び相互評価を通して、今後の授業づくりの課題を探究する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション（本授業の目的と方法、教職課程における本授業の位置づけなど）</p> <p>第2回：これからの技術科教育の方向性と考え方</p> <p>第3回：授業評価を行う上での技術科における題材の考え方</p> <p>第4回：技術科における資質・能力の育成と授業評価の考え方</p> <p>第5回：先端教材を用いた技術科における授業設計(Ⅰ)（生活や社会を支える技術）（情報通信技術の活用、教材研究を含む）</p> <p>第6回：先端教材を用いた技術科における学習評価(Ⅰ)（生活や社会を支える技術）（情報通信技術の活用、教材研究を含む）</p> <p>第7回：先端教材を用いた技術科における授業設計(Ⅱ)（技術による問題解決）（情報通信技術の活用、教材研究を含む）</p> <p>第8回：先端教材を用いた技術科における学習評価(Ⅱ)（技術による問題解決）（情報通信技術の活用、教材研究を含む）</p>			

第 9 回：先端教材を用いた技術科における授業設計(Ⅲ)（社会の発展と技術）（情報通信技術の活用、教材研究を含む）

第 10 回：先端教材を用いた技術科における学習評価(Ⅲ)（社会の発展と技術）（情報通信技術の活用、教材研究を含む）

第 11 回：技術科の模擬授業の実践と評価（1）生活や社会を支える技術における検討（情報通信技術の活用、教材研究、学習指導案作成、模擬授業を含む）

第 12 回：技術科の模擬授業の実践と評価（2）技術による問題解決における検討（情報通信技術の活用、教材研究、学習指導案作成、模擬授業を含む）

第 13 回：技術科の模擬授業の実践と評価（3）社会の発展と技術における検討（情報通信技術の活用、教材研究、学習指導案作成、模擬授業を含む）

第 14 回：技術科の模擬授業の実践と評価（4）指導計画全体を通しての総合的な検討（情報通信技術の活用、教材研究、学習指導案作成、模擬授業を含む）

定期試験

テキスト

中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 技術・家庭編（文部科学省、2017）

技術科教育概論（日本産業技術教育学会技術教育分科会編、九州大学出版会、2018）

参考書・参考資料等

中学校学習指導要領（平成29年告示）

技術・家庭〔技術分野〕（文部科学省検定済教科書、開隆堂出版、最新版）

学生に対する評価

レポート課題（10%）、模擬授業等（40%）、期末試験（50%）

授業科目名：生活経営学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 田中 敬文
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 家庭）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 家庭経営学 (家族関係学及び家庭経済学を含む)		
授業のテーマ及び到達目標 豊かな生活を築き上げるため、エクセルを用いて生活設計表を作成できるようになる。			
授業の概要 豊かな生活を築き上げるために、現代の生活の根幹にある経済的・社会的な構造を学ぶ。具体的には生涯生活設計の観点から、育児・教育と住居費用等についてライフステージに応じた意思決定を学ぶため、エクセルを用いてシミュレーションする。			
授業計画 第1回：生涯生活設計の意義 第2回：生涯生活設計とシミュレーション 第3回：大学卒業後、就職、結婚まで 第4回：結婚時の生活設計と住居決定 第5回：自分にかけられた子育て・教育費 第6回：子育て方針と教育費 第7回：住居購入1: 住宅ローンの借入と返済 第8回：住居購入2: 必要経費 第9回：住居購入3: 賃貸と購入の意思決定 第10回：退職までの生活設計表の作成 第11回：退職後の収入と支出 第12回：年金制度の概要と今後の推計 第13回：介護費用と準備 第14回：まとめと生活設計表の発表			
テキスト 大竹美登利・倉持清美編著『初等家庭科の研究 指導力につなげる専門性の育成』萌文書林			
参考書・参考資料等 教職員生涯福祉財団『ライフマップ 教職員の生涯生活設計ガイドブック』及び同財団web			
学生に対する評価: 講義中の課題提出とプレゼンテーション30%、生活設計表の作成70%			

授業科目名：消費生活論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 田中 敬文
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 家庭）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・家庭経営学 (家族関係学及び家庭経済学を含む)		
授業のテーマ及び到達目標 消費者問題の現状を理解し、金融教育や消費者教育の意義を理解できるようになる。			
授業の概要 生涯生活設計の観点から、多重債務等の複雑化する消費者問題の現状を理解し、18歳への成人年齢引き下げにも対応するため、家庭科における金融教育や消費者教育の意義や内容・指導法などについて学ぶ。			
授業計画 第1回：家庭経済の現状と消費者問題 第2回：消費者問題の種類と特徴 第3回：消費者問題の歴史 第4回：小学生の消費者問題 第5回：小学生への金融・消費者教育 第6回：中学生の消費者問題 第7回：中学生への金融・消費者教育 第8回：高校生の消費者問題 第9回：高校生への金融・消費者教育 第10回：「家計管理」の現状と課題 第11回：「多重債務」の現状と課題 第12回：「資産形成」の現状と課題 第13回：消費生活についてのレポート発表 第14回：まとめ			
テキスト 大竹美登利・倉持清美編著『初等家庭科の研究 指導力につなげる専門性の育成』萌文書林			
参考書・参考資料等 必要に応じて、全国銀行協会ホームページから教材をダウンロードします			
学生に対する評価：講義中の課題提出とプレゼンテーション30%、消費生活についてのレポート70%			

授業科目名： 被服管理学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 塚崎 舞
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 家庭）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・被服学（被服製作実習を含む）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>多様化する被服の特徴に応じた手入れ方法の選択の必要性を理解し、家庭洗濯を主体として湿式洗濯と乾式洗濯、仕上げの特徴と仕組み、洗剤の役割と汚れが落ちる仕組みを科学的な視点から理解する。適切な手入れによりサステイナブルな被服管理を実現できるよう自ら実践し、家庭科の授業に活用できるようにする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>被服の着用による汚れの付着と被服の品質表示から、汚れと被服材料の科学的な関連を理解する。その上で、洗剤と配合剤、仕上げ剤等の成分と理論、家庭洗濯と商業洗濯の特徴を学び、日常で着用するさまざまな被服に適した手入れと保管を考えるとともに、被服管理による環境負荷を抑制し、サステイナブルな衣生活を構築するための考え方を養成する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス、衣服の汚れと管理</p> <p>第2回：繊維製品の品質表示と取扱い</p> <p>第3回：洗濯洗剤と界面活性剤</p> <p>第4回：油性／粒子汚れの洗浄理論</p> <p>第5回：界面活性剤の種類と特徴</p> <p>第6回：洗剤の種類と配合剤の作用</p> <p>第7回：洗浄力の試験方法と評価</p> <p>第8回：漂白・増白の仕組み</p> <p>第9回：しみ抜きと仕上げ剤の作用と香り</p> <p>第10回：家庭における洗濯の要素（水、洗濯機・手洗い）</p> <p>第11回：商業洗濯（ドライクリーニング）</p> <p>第12回：被服材料に適した保管</p> <p>第13回：サステイナブルな被服管理</p> <p>第14回：試験・まとめ</p>			
<p>テキスト</p> <p>増子富美他「被服管理学（生活科学テキストシリーズ）」朝倉書店</p>			
<p>参考書・参考資料等</p>			

(一社) 日本衣料管理協会「被服整理学」
中西茂子他「被服整理学 (日本女子大学家政学シリーズ)」 (朝倉書店)

学生に対する評価

受講状況 (10%)、授業課題 (20%)、定期試験 (70%)

授業科目名：衣生活論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：高橋美登梨 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 家庭）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・被服学（被服製作実習を含む）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>わたしたちが日常的に着用している被服の構成および材料，ボタンや接着芯等の付属品の取り扱い等について，演習を通して知識と技能を確実に習得することを目標とする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>生活習慣の中でも衣服の着脱は，生涯に渡る衣生活の自立に関わる生活動作である。衣服と着脱の動作との関係性について，オープンカラー半袖シャツの製作を通じて学ぶ。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：衣服の素材（被服製作に関わる繊維・糸・布の解説）</p> <p>第2回：ライフステージと衣服（1）エージングと着装</p> <p>第3回：ライフステージと衣服（2）既制服のサイズ表示</p> <p>第4回：シャツの理論と製作（1）採寸・型紙づくり</p> <p>第5回：シャツの理論と製作（2）裁断・印付け</p> <p>第6回：シャツの理論と製作（3）接着芯貼り・布端の処理（ロックミシン）</p> <p>第7回：シャツの理論と製作（4）ポケットとヨークを付ける</p> <p>第8回：シャツの理論と製作（5）えりを作る</p> <p>第9回：シャツの理論と製作（6）えりを付ける</p> <p>第10回：シャツの理論と製作（7）そでを付ける</p> <p>第11回：シャツの理論と製作（8）そで下を縫う</p> <p>第12回：シャツの理論と製作（9）すその始末</p> <p>第13回：シャツの理論と製作（10）ボタンホール、ボタン付け</p> <p>第14回：まとめ（着装会を含む）</p> <p>定期試験は実施しない。</p>			
<p>テキスト</p> <p>衣の科学シリーズ 衣服製作の科学，松山容子編，建帛社，ISBN 948-4-7679-1046-3</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>高等学校家庭科教科書「ファッション造形基礎」（実教出版）</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>製作活動への姿勢 20%（製作進度や正確さ、製作活動における計画性や主体性）</p> <p>作品 45%（完成作品および製作途中の提出物）</p> <p>レポート 35%（製作に関する知識および被服製作学習の意義に関する課題をまとめる）</p>			

授業科目名： 被服学実験・実習A	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 塚崎 舞 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 家庭）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・被服学（被服製作実習を含む）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>日常で着用する衣服について、実験・実習を通して科学的な視点から衣服材料とその機能性、洗浄に関する基礎的な知識・理論の定着をはかり、さらに技術を体得することで、家庭科の授業や教材開発に活用できるようにする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>被服実験に必要な基礎的事項と注意点、および実験器具の扱いとデータの計算処理について実践的に学ぶ。小・中学校および高等学校の家庭科で扱われる、洗濯用洗剤に含まれる成分と洗浄性能、衣服に用いられる繊維・糸・布の基礎的な性質と着用時の快適性に関わる要素について基礎的な実験を通して知識と技術を身に着ける。また、染色実習では我が国の伝統文化にふれ、経験を養う。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス（履修）、実験・実習の基礎事項と注意 第2回：実験器具の扱いとデータ処理 第3回：界面活性剤の作用 第4回：石鹼の合成とCOD 第5回：漂白・増白剤の作用 第6回：洗浄試験 第7回：実験試料の準備と解説 第8回：顕微鏡による繊維の観察 第9回：繊維の燃焼性・溶解性 第10回：糸の撚りと布の組織（織り・編み） 第11回：布の防しわ性・剛軟性 第12回：布の乾燥性・吸湿性・不感蒸泄 第13回：布の吸水性・はっ水性 第14回：ハンカチの染色実習</p>			
<p>テキスト</p> <p>増子富美他「被服管理学（生活科学テキストシリーズ）」（朝倉書店） 日下部信幸「確かな目を育てる 図説 被服の科学」（開隆堂）</p>			

参考書・参考資料等
飯田隆他「イラストで見る化学実験の基礎知識」(丸善出版)
化学同人編集部「実験データを正しく扱うために」(化学同人)
学生に対する評価
受講状況(30%)、レポート(70%)

授業科目名： 被服学実験・実習B	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 塚崎 舞
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 家庭）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・被服学（被服製作実習を含む）		
授業のテーマ及び到達目標 多様な被服の性質と成り立ちを理解し、適切かつ合理的な選択と管理について、科学的な実験・実習を通じ知識と技術をさらに深めるとともに、サステイナブルな衣生活を考えるための教材づくりや授業に活用、工夫できるようにする。			
授業の概要 被服実験に必要な知識と技術を応用的に学び、小・中学校および高等学校の家庭科で扱われる、繊維の性質と我が国で産業が盛んである化学繊維の成り立ちと布の性質を実践的に理解する。また、多様な色彩の繊維製品はどのようにして染色され形づくられるのか、実験・実習を通して知識と経験を深め、日常で着用する被服の成り立ちを総合して考察する。			
授業計画 第1回：ガイダンス（履修）、実験・実習の基礎事項と注意 第2回：実験器具の扱いとデータ処理 第3回：実験で使用する試薬の調製 第4回：繊維の溶解性 第5回：ナイロンの合成 第6回：布の収縮性 第7回：布の保温性 第8回：実験試料の準備と解説 第9回：合成染料による染色（繊維の影響） 第10回：合成染料による染色（pHの影響） 第11回：染色布の堅牢度試験 第12回：染色布の表面反射率測定と評価 第13回：染めもの実習（天然染料による染色） 第14回：染めもの実習（機織り）			
テキスト 日下部信幸「確かな目を育てる 図説 被服の科学」（開隆堂） 岡田宣子他「ビジュアル衣生活論」（建帛社）			
参考書・参考資料等			

飯田隆他「イラストで見る化学実験の基礎知識」(丸善出版)
化学同人編集部「実験データを正しく扱うために」(化学同人)
(一社)日本衣料管理協会「染色加工学」

学生に対する評価

受講状況(30%)、レポート(70%)

授業科目名：食品学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：星野亜由美 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 家庭）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・食物学（栄養学，食品学及び調理実習を含む。）（中学校及び高等学校）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>食生活を取り巻く環境がめまぐるしく変化している現代において，一人ひとりが「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し，健全な食生活を実践できるようにすることが求められている。本授業では食事設計に必要な食品に関する化学的知識を習得することを目標とする。食品の分類，食品中の水分の働き，食品成分の特徴や貯蔵加工と化学変化に関する基礎的な知識を習得することを目標とする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>まず，食品の分類とその特徴について説明する。次に食品中に含まれる成分の特徴について，食品群別に特徴を概説する。終盤には，食品の貯蔵加工中に生じる化学変化や食品表示と規格基準について説明する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス，食品の分類と特徴 第2回：食品成分と水分の関わり 第3回：食品成分とその特徴（穀類） 第4回：食品成分とその特徴（いも類，豆類） 第5回：食品成分とその特徴（野菜類） 第6回：食品成分とその特徴（果実類） 第7回：食品成分とその特徴（肉類） 第8回：食品成分とその特徴（魚介類） 第9回：食品成分とその特徴（卵，乳） 第10回：食品成分とその特徴（油脂類） 第11回：加工食品類，嗜好飲料 第12回：食品の貯蔵加工と化学変化 第13回：食品の表示と規格基準 第14回：学習のまとめ，復習テスト</p> <p>定期試験は実施しない。</p>			
<p>テキスト</p> <p>吉田勉 監 南道子・舟木淳子 編著『調理学-第3版:生活の基盤を考える（食物と栄養学基礎シリーズ）』学文社</p>			

参考書・参考資料等

授業の中で紹介していく。

学生に対する評価

復習テスト（60％），課題への取組み状況（40％）

授業科目名：食物学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：南 道子 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 家庭）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 食物学（栄養学，食品学及び調理実習を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標：自分の健康的な食生活のマネージメントを理解するため、食物領域のさまざまな課題や解決方法を知ることがねらいとしている。この科目の受講を通して、学生が健康的な食生活について理解し、具体的に説明できるようになることを目標とする。			
授業の概要：食生活の理解のため日本人の食生活の現状と課題の説明を行う。教科書を活用しながら授業を行う。			
<p>授業計画</p> <p>授業計画</p> <p>第1回：日本の食生活の意義 ～はじめに～</p> <p>第2回：食の歴史 ～世界の食と日本の食～</p> <p>第3回：健康に関する日本の制度と行政</p> <p>第4回：新生児期および幼児期の食生活</p> <p>第5回：学童期・思春期の食生活</p> <p>第6回：青年期の食生活、女性に関する食生活</p> <p>第7回：壮年期の食生活</p> <p>第8回：高齢期の食生活</p> <p>第9回：食事分析実践第</p> <p>第10回：日本の食における課題</p> <p>第11回：安全面からみた食生活</p> <p>第12回：環境面からみた食生活</p> <p>第13回：食事全体を概観して～安全と環境とのかかわり～</p> <p>第14回：知識の確認（定期試験）と復習</p>			
テキスト私たちの食と健康―食生活の諸相 第二版 三共出版 2300円（税別）			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>日本人の食事摂取基準2020版、食物と栄養学基礎シリーズ8 応用栄養学 第二版 学文社 2500円（税別） わかりやすい栄養学 改訂5版 三共出版 2300円（税別）</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>定期試験60%、課題30%、平常点10%で評価する。</p>			

授業科目名：食物学実験 ・実習A	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名：星野亜由美 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 家庭）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・食物学（栄養学，食品学及び調理実習を含む。）（中学校及び高等学校）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>調理学概論で学んだ食品の調理性の知識について，実験・実習を通し体験的に学び，理解を深める。さらに日常的な調理に関する，基本的な調理操作を習得することを目標とする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>まず，実習室の衛生管理や実習指導時の安全管理について説明する。次に炊飯，だしの取り方，「ゆでる」調理法など，小学校家庭科の指導内容の背景にある科学特性について実験を通し理解を深める。中盤以降は，小麦粉，鶏卵，砂糖などの食材，ルー，マヨネーズなどの加工食品を題材とした実験・実習を行う。これらの学習を通して，小学校家庭科における調理の基礎，中学校家庭科における日常食の調理と地域の食文化，高等学校家庭科における食事と健康などの指導において必要な基礎的知識を習得することを目標とする。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス，実習室の衛生管理と実習指導上の留意点</p> <p>第2回：炊飯実験（うるち米ともち米の性質，デンプンの糊化）</p> <p>第3回：だしの調理（煮干し，昆布，鰹，混合だし）</p> <p>第4回：野菜の調理と色素の変化（クロロフィルとアントシアン）</p> <p>第5回：焼く，ゆでる調理（魚の塩焼き，青菜のごま和え，みそ汁，白飯）</p> <p>第6回：小麦粉の種類とグルテン形成</p> <p>第7回：グルテン形成と添加物の影響（うどん，クッキー）</p> <p>第8回：グルテン形成の調理への応用（餃子，涼拌三絲，蛋花湯）</p> <p>第9回：タンパク質の凝固と豆腐の作成</p> <p>第10回：鶏卵の鮮度の鑑別，卵液の過熱による凝固</p> <p>第11回：砂糖溶液の加熱による変化，カスタードプディング</p> <p>第12回：蒸す，煮る調理（茶碗蒸し，魚の煮つけ）</p> <p>第13回：小麦粉の膨化（スポンジケーキ）</p> <p>第14回：ルー，マヨネーズの作成（マカロニグラタン，コールスローサラダ）</p> <p>定期試験は実施しない。</p>			
<p>テキスト</p> <p>三輪里子 監 飯田文子・藤井 恵子 編著『あすの健康と調理 食を通じて豊かなLife Styleを』アイ・ケイ・コーポレーション</p>			

参考書・参考資料等

授業の中で紹介していく。

学生に対する評価

実習・実技（評価割合：60%）、レポート（評価割合：40%）に授業への参加度を加味して総合的に評価する。

授業科目名：食物学実験 ・実習B	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：星野亜由美 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 家庭）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・食物学（栄養学，食品学及び調理実習を含む。）（中学校及び高等学校）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>ライフステージごとの栄養摂取の特徴や食生活を取り巻く課題について理解し，生涯を通じて健康的な食生活を営むための知識を身に付ける。離乳期，学齢期，壮年期，高齢期の献立と調理について実習を通じて理解を深め，ライフステージに応じた食事作りに関する基礎的知識と技能を習得することを目標とする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>離乳期，学齢期，壮年期，高齢期に関し，ライフステージに応じた栄養摂取の特徴や課題について説明し，ライフステージに応じた調理実習を行う。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス</p> <p>第2回：離乳食</p> <p>第3回：学齢期の栄養と学校給食</p> <p>第4回：貧血の成因とその予防</p> <p>第5回：鉄を多く含む食事</p> <p>第6回：壮年期の栄養と生活習慣病の予防</p> <p>第7回：エネルギー，脂質を減らした料理</p> <p>第8回：高血圧の成因と現状</p> <p>第9回：食塩を減らした料理</p> <p>第10回：骨粗鬆症の成因とその予防</p> <p>第11回：カルシウムを多く含む食事</p> <p>第12回：高齢期の食と介護食の展開</p> <p>第13回：食べる機能に合わせた食事</p> <p>第14回：授業のまとめとテスト</p> <p>定期試験は実施しない。</p>			
<p>テキスト</p> <p>内田和宏・大石明子・小川洋子・城田知子・林辰美・森脇千夏 著</p> <p>『ライフステージ 実習栄養学 第6版 健康づくりのための栄養と食事』医歯薬出版株式会社</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>授業の中で紹介していく。</p>			

学生に対する評価

実習・実技（評価割合：60%）、レポート（評価割合：40%）に授業への参加度を加味して総合的に評価する。

授業科目名：生活環境論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：萬羽郁子 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 家庭）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・住居学（中学校） ・住居学（製図を含む。）（高等学校）		
授業の到達目標及びテーマ 生活環境と健康・快適性の関わりについて学び、健康で快適な住まい方の実現を目指す。			
授業の概要 生活環境と健康の関連について学ぶとともに、温熱・空気・光・音環境と快適性や環境調整行動について測定や演習を通して考える。環境測定や実験を通して、室内および屋外環境の改善手法や評価方法について専門的事項を身に付けるとともに、小学校・中学校・高等学校家庭科の健康で快適な住まい方の学習内容と結び付け、教材検討などに繋げられるようにする。			
授業計画 第1回：ガイダンス、生活環境と健康・快適 第2回：健康で快適な光・音環境 第3回：健康で快適な空気・温熱環境 第4回：健康で快適な温熱環境①（熱の性質） 第5回：健康で快適な温熱環境②（断熱性能と居住性） 第6回：日照・日射とその調整 第7回：空気環境（通風・換気） 第8回：住環境とまちづくり①（都市計画マスタープラン） 第9回：住環境とまちづくり②（地域の魅力探し） 第10回：環境に配慮した住まい方・まちづくり、IoTの活用 第11回：これからの住まい方の提案 第12回：生活環境調査の計画 第13回：生活環境調査の実施と結果の解析 第14回：生活環境調査結果の報告会、復習テスト、持続可能な住生活の実現に向けて、まとめ 定期試験は実施しない。			
テキスト 定行まり子・沖田富美子 編著『生活と住居』光生館			
参考書・参考資料等 授業の中で紹介していく。			
学生に対する評価 レポート課題・発表（60%）、授業中の課題への取組み状況（20%）、復習テスト（20%）			

授業科目名：住環境論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：萬羽郁子 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 家庭）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・住居学（中学校） ・住居学（製図を含む。）（高等学校）		
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>少子高齢化や、家族形態およびライフスタイルの多様化、環境問題など、住生活を取り巻く問題は様々な様相を呈している。変化する住環境について学び、住生活をより豊かにするための視点を身に付け、地域生活を包含した住環境についての知識や課題解決方法を習得することを目標とする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>安全で安心な住まい・持続可能なまちづくりを目指して、様々な視点から住環境を分析する。また、これらの知識を小・中・高等学校家庭科での学びに結び付け、安全な住環境に関する教材開発に繋げられる力を養う。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス，安全な住環境とは 第2回：地域の安全①（避難場所・避難経路等の確認） 第3回：地域の安全②（防災マップ・ハザードマップ） 第4回：地震に強い家づくり 第5回：家庭における地震対策・地域での取り組み 第6回：住宅・学校内バリアの調査・測定（車いす体験） 第7回：高齢者を取り巻く社会状況と住環境（高齢者体験） 第8回：居住環境整備案の検討・発表 第9回：子どもの発達と住居計画（子ども体験ツール） 第10回：家庭内事故と対策 第11回：ユニバーサルデザイン 第12回：火災への対策、防犯対策 第13回：環境バリアフリー 第14回：持続可能なまちづくりに向けて、復習テスト，まとめ 定期試験は実施しない。</p>			
<p>テキスト</p> <p>定行まり子・沖田富美子 編著『生活と住居』光生館</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>授業の中で紹介していく。</p>			

学生に対する評価

レポート課題・発表（60%）、授業中の課題への取組み状況（20%）、復習テスト（20%）

授業科目名：乳幼児と生活Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 倉持清美
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校家庭科)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・保育学（実習を含む。） ・保育学（実習及び家庭看護を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>日々の生活の中で、乳幼児が発達していく姿をとらえていくとともに、乳幼児を取り巻く物的・人的環境の重要性についての理解を深める。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>乳幼児の発達を支える物的・人的環境について学び、子育て支援の必要性について理解する。その学習をもとに、乳幼児をめぐる現代的課題を探究し、解決策も含めて発表する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：乳幼児の生活について</p> <p>第2回：発達を支える物的環境</p> <p>第3回：発達を支える人的環境</p> <p>第4回：育児不安・育児ストレスの原因</p> <p>第5回：育児不安・育児ストレスへの支援</p> <p>第6回：子育て支援制度</p> <p>第7回：生活の中での発達支援</p> <p>第8回：レポート発表：子どもの貧困</p> <p>第9回：レポート発表：児童虐待</p> <p>第10回：レポート発表：子育て支援制度</p> <p>第11回：レポート発表：子育て支援施設</p> <p>第12回：レポート発表：少子化とふれあい体験</p> <p>第13回：レポート発表：家庭科の役割</p> <p>第14回：授業のまとめ</p>			
<p>テキスト</p> <p>授業時間中に適宜指示する</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>授業時間中に適宜指示する</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>レポート40% 発表30% 授業態度30%を総合的に評価する。</p>			

授業科目名：看護・介護と生活	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名久保 恭子 岸田 泰子
			担当形態：オムニバス
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校家庭科)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科における専門的事項 ・保育学（実習を含む。）（中学校） ・保育学（実習及び家庭看護を含む。）（高等学校）		
授業のテーマ及び到達目標 家族の健康を保持・増進し、疾病の予防、早期発見に努めることができる。また、疾病者に対して、看護や介護など適切に対処し、災害や事故時でも適切なケアが理解できる。			
授業の概要 わが国の医療保健福祉の課題の中に少子高齢化がある。また、災害や事故の多発、高齢者の介護問題も深刻である。この科目では、家族の健全な育成のために必要な看護、人々の健康の保持・増進、疾病の予防・早期発見・介護方法のための知識を学習する。			
授業計画 第1回：家族の健康と看護 日本における家族の特徴（久保） 第2回：子どもの事故と予防 子どもの応急処置（久保） 第3回：子どもの健康チェック（バイタルサイン）（久保） 第4回：子どもと災害（久保） 第5回：子どものアレルギー・エピペンの使い方（久保） 第6回：子どもの発達障がい（久保） 第7回：子どもの日常生活の世話（久保） 第8回：思春期の看護（岸田） 第9回：性と生殖に関する健康（岸田） 第10回：妊娠、出産、親性（岸田） 第11回：メンタルヘルス（岸田） 第12回：高齢者の心身と生活の特徴（岸田） 第13回：高齢者の介護・看護（岸田） 第14回：老年期・臨死期のケア（岸田）			
テキスト：授業時間中に適時指示する			
参考書・参考資料等 暮らしの看護 建帛社 https://www.kenpakusha.co.jp/np/isbn/9784767918525/			
学生に対する評価 最終レポート90%、最終レポートは課題に対して、多面的に文献等を使って調べ、自ら考察したものをまとめる。質が高く深い洞察が見られるものを評価する。平常点評価10%（授業期間中に			

実施するレポート)。

授業科目名： 中等家庭科教育法 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 渡瀬典子 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 家庭）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>1) 中学校「技術・家庭(家庭分野)」と高等学校「家庭」における教育課程の枠組・特徴が理解できる</p> <p>2) 日常生活における現実課題について、家庭科の学習目標を抽出し、学習内容が具体化できる</p> <p>3) 「実践的・体験的学習」場面での学習方法を適切に選択し、指導過程が組み立てられる</p> <p>4) 中学校「技術・家庭(家庭分野)」における学習指導を構想することができる</p>			
<p>授業の概要</p> <p>この授業では、中学校「技術・家庭（家庭分野）」及び高等学校「家庭」におけるカリキュラムの特徴について歴史的背景を俯瞰しつつ、理解を深める。指導計画に基づいた家庭科教育（主に中学校段階の）教材研究を行った後、「実践的・体験的学習」教材の構想と指導の工夫を踏まえた模擬授業・授業研究を行う。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第 1 回：オリエンテーション 中学校・高等学校の家庭科と「男女必修」</p> <p>第 2 回：中学校・高等学校で家庭科教育はどのように変わってきたのか (学習指導要領から見る変化)</p> <p>第 3 回：年間指導計画とは（中学校と高等学校との比較）</p> <p>第 4 回：中学校における年間指導計画の検討（グループワークを含む）</p> <p>第 5 回：中学校における年間指導計画案の発表（情報通信技術の活用を含む）</p> <p>第 6 回：家庭科の学習課題から授業を具体化してみよう(学習指導案の作成)</p> <p>第 7 回：家庭科の学習内容から授業を構成してみよう(学習指導案の作成)</p> <p>第 8 回：家庭科の学習評価から授業を見直してみよう(学習指導案の作成)</p> <p>第 9 回：家庭科における教材研究の方法（情報通信技術の活用を含む）</p> <p>第 10 回：家庭科の学習指導の検討（衣生活に関する内容を含んだ模擬授業）</p> <p>第 11 回：家庭科の学習指導の検討（食生活に関する内容を含んだ模擬授業）</p> <p>第 12 回：家庭科の学習指導の検討（住生活に関する内容を含んだ模擬授業）</p> <p>第 13 回：家庭科の学習指導の検討（家族・家庭生活に関する内容を含んだ模擬授業）</p> <p>第 14 回：家庭科の学習指導の検討（消費生活と環境に関する内容を含んだ模擬授業）</p> <p>中学校における学習指導の展望と課題（まとめ）</p> <p>定期試験は実施しない。</p>			
テキスト			

文部科学省, 高等学校学習指導要領解説 家庭編, 教育図書, 2019 年

文部科学省, 中学校学習指導要領解説 技術・家庭編, 開隆堂, 2018 年

参考書・参考資料等

大竹美登利, 鈴木真由子, 綿引伴子, 鶴田敦子他, 技術・家庭(家庭分野), 開隆堂, 2021 年

大竹美登利, 鶴田敦子他, 家庭総合 明日の生活を築く, 開隆堂, 2013 年

* 授業時に適宜資料を配布する。

学生に対する評価

授業時に課すコメントカード・グループワーク記録の内容 (50%) , レポート課題 (20%) , 期末課題 (30%)

授業科目名： 中等家庭科教育法Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：渡瀬 典子 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 家庭）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>1) 中学校「技術・家庭(家庭分野)」と高等学校「家庭」における学習方法の特徴を理解し、教材開発することができる</p> <p>2) 「実践的・体験的学習」場面での学習方法を適切に選択し、指導計画を組み立てられる</p> <p>3) 高等学校「家庭」の共通教科科目における学習指導を構想することができる</p>			
<p>授業の概要</p> <p>中学校「技術・家庭(家庭分野)」と高等学校「家庭」で学習する内容について、様々な授業実践例をもとに授業研究を行う。この授業では、高等学校「家庭」の内容を中心に、現代の生活課題や学際的課題に対して家庭科教育ではどのようにアプローチするか、教材解釈・教材研究とともにカリキュラム開発を行う。教材の検討にあたり、グループワークによる模擬授業等をもとに、討議・検証をする。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション 高等学校「家庭」のカリキュラム</p> <p>第2回：学校家庭クラブ活動とホームプロジェクト</p> <p>第3回：高等学校における年間指導計画の検討（グループワークを含む）</p> <p>第4回：実践的・体験的学習を取り入れた年間指導計画案の構想（情報通信技術の活用を含む）</p> <p>第5回：家庭科の学習教材の検討（家族・家庭生活に関する内容を含んだ授業、情報通信技術の活用を含む）</p> <p>第6回：家庭科の学習指導の検討（家族・家庭生活に関する内容を含んだ模擬授業、情報通信技術の活用を含む）</p> <p>第7回：家庭科の学習教材の検討（乳幼児・高齢者の生活に関する内容を含んだ授業、情報通信技術の活用を含む）</p> <p>第8回：家庭科の学習指導の検討（乳幼児・高齢者の生活に関する内容を含んだ模擬授業、情報通信技術の活用を含む）</p> <p>第9回：各教材における学習評価の工夫（情報通信技術の活用を含む）</p> <p>第10回：家庭科の学習教材の検討（生活文化と衣食住に関する内容を含んだ授業、情報通信技術の活用を含む）</p> <p>第11回：家庭科の学習指導の検討（生活文化と衣食住に関する内容を含んだ模擬授業、情報通信技術の活用を含む）</p> <p>第12回：家庭科の学習教材の検討（消費生活と環境に関する内容を含んだ授業、情報通信技術の活用を含む）</p>			

活用を含む)

第 1 3 回：家庭科の学習指導の検討（消費生活と環境に関する内容を含んだ模擬授業，情報通信技術の活用を含む）

第 1 4 回：高等学校における学習指導の展望と課題

定期試験は実施しない。

テキスト

文部科学省，中学校学習指導要領解説 技術・家庭編，開隆堂，2018年

文部科学省，高等学校学習指導要領解説 家庭編，教育図書，2019 年

参考書・参考資料等

大竹美登利，鈴木真由子，綿引伴子，鶴田敦子他，技術・家庭(家庭分野)，開隆堂，2021 年

大竹美登利，鶴田敦子他，家庭総合 明日の生活を築く，開隆堂，2013 年

* 授業時に適宜資料を配布する。

学生に対する評価

授業時に課すコメントカード・グループワーク記録の内容（60%） ， レポート課題（20%） ，
期末課題（20%）

授業科目名： 中等家庭科教育法Ⅲ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：藤田(工藤)智子 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 家庭）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
①中等家庭科を教える為に必要な基礎知識（教科の目標、内容構成、意義、指導方法、学習評価）について理解を深める。			
②小・中・高等学校を通じた家庭科の理論と特徴を知り、子どもの生活実態や発達課題を踏まえた、家庭科のカリキュラムや学習方法について主体的に考えることができるようになる。			
③学習指導案や教材の作成を通し、家庭科の深い専門知識および幅広い授業方法と技術を身につける。			
④家庭科教育の今後の課題について理解する。			
授業の概要			
生徒の実態および教材研究を踏まえた学習指導案の作成および、模擬授業を行う。模擬授業の検討と振り返りを通し、家庭科の内容と目標、効果的な指導方法について理解を深める。指導案の検討および模擬授業の際は、効果的な情報通信技術の使い方についても検討する。			
授業計画			
第1回：ガイダンス、家庭科教育とは何か、中等家庭科の目標と内容の確認			
第2回：学習指導案の検討(1) 模擬授業- 家族・家庭生活と子どもとの関わり（中学校）（情報通信技術の活用を含む）			
第3回：学習指導案の検討(2) 模擬授業- 食生活と自立（中学校）（情報通信技術の活用を含む）			
第4回：学習指導案の検討(3) 模擬授業- 衣生活と自立（中学校）（情報通信技術の活用を含む）			
第5回：学習指導案の検討(4) 模擬授業- 住生活と自立（中学校）（情報通信技術の活用を含む）			
第6回：学習指導案の検討(5) 模擬授業- 消費生活と環境（中学校）（情報通信技術の活用を含む）			
第7回：学習指導案の検討(6) 模擬授業- 人の一生と家族・家庭（高等学校）（情報通信技術の活用を含む）			
第8回：学習指導案の検討(7) 模擬授業- 子どもの発達と保育・福祉（高等学校）（情報通信技術の活用を含む）			
第9回：学習指導案の検討(8) 模擬授業- 高齢者との関わりと福祉（高等学校）（情報通信技術の活用を含む）			
第10回：学習指導案の検討(9) 模擬授業- 食生活の科学と文化（高等学校）（情報通信技術の活用を含む）			
第11回：学習指導案の検討(10) 模擬授業- 衣生活の科学と文化（高等学校）（情報通信技術の活用を含む）			

第 1 2 回：学習指導案の検討(11) 模擬授業- 住生活の科学と文化（高等学校）（情報通信技術の活用を含む）

第 1 3 回：学習指導案の検討(12) 模擬授業- 経済の計画と消費、生涯の生活設計（高等学校）
（情報通信技術の活用を含む）

第 1 4 回：学校教育における家庭科教育の意義

定期試験は実施しない

テキスト

『中学校学習指導要領解説 技術・家庭編』（平成29年6月 文部科学省）

『高等学校学習指導要領解説 家庭編』（平成30年 文部科学省）

参考書・参考資料等

『アクティブ・ラーニングで育てる これからの家庭科』 牧野カツコ監修 地域教材社

『家庭科教育』 橋本美保・田中智志監修 大竹美登利編著 一藝社

学生に対する評価

期末レポート（40%）、授業時の発言・提出物・グループワークの発表及び参加態度（60%）

授業科目名： 中等家庭科教育法Ⅳ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：藤田(工藤)智子 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 家庭）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>家庭科の目標、内容を理解した上で、深い専門知識および幅広い指導方法と技術を身につける。家庭科の理論と特徴を知り、子どもの生活実態と発達課題から家庭科のカリキュラムや学習方法について主体的に考えることができるようになる。</p> <p>家庭科教育の今後の課題について理解する。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>様々な教育実践例を基に、家庭科の内容と目標、効果的な授業方法について理解を深め、授業を省察することを通し、よりよい家庭科の授業を行えるようになる。教育指導・家庭科教育の意義などについての集団討論を行うことにより、教育指導や家庭科教育の課題や展望への理解を深める。教材研究および指導案の検討、模擬授業の際は、効果的な情報機器類の使い方についても検討する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス、家庭科教育とは何か、中等家庭科の目標と内容の確認</p> <p>第2回：教材研究- 家族・家庭生活（情報通信技術の活用を含む）</p> <p>第3回：教材研究- 食生活（情報通信技術の活用を含む）</p> <p>第4回：教材研究- 衣生活（情報通信技術の活用を含む）</p> <p>第5回：教材研究- 住生活（情報通信技術の活用を含む）</p> <p>第6回：教材研究- 消費生活と環境（情報通信技術の活用を含む）</p> <p>第7回：教材研究- 子どもの発達と保育・福祉（情報通信技術の活用を含む）</p> <p>第8回：教材研究- 高齢者との関わりと福祉（情報通信技術の活用を含む）</p> <p>第9回：教材研究- 生涯の生活設計（情報通信技術の活用を含む）</p> <p>第10回：学習計画の立て方と学習評価</p> <p>第11回：学習指導案の検討(1) 模擬授業：参加型の授業づくり（情報通信技術の活用を含む）</p> <p>第12回：学習指導案の検討(2) 模擬授業：複数の領域をつなげた授業づくり（情報通信技術の活用を含む）</p> <p>第13回：学習指導案の検討(3) 模擬授業：ユニバーサルデザインの授業づくり（情報通信技術の活用を含む）</p> <p>第14回：家庭科教員として必要な資質とは何か、総括</p> <p>定期試験は実施しない</p>			
テキスト			

『中学校学習指導要領解説 技術・家庭編』（平成29年6月 文部科学省）

『高等学校学習指導要領解説 家庭編』（平成30年 文部科学省）

参考書・参考資料等

『アクティブ・ラーニングで育てる これからの家庭科』 牧野カツコ監修 地域教材社

『家庭科教育』 橋本美保・田中智志監修 大竹美登利編著 一藝社

学生に対する評価

期末レポート（40%）、授業時の発言・提出物・グループワークの発表及び参加態度（60%）